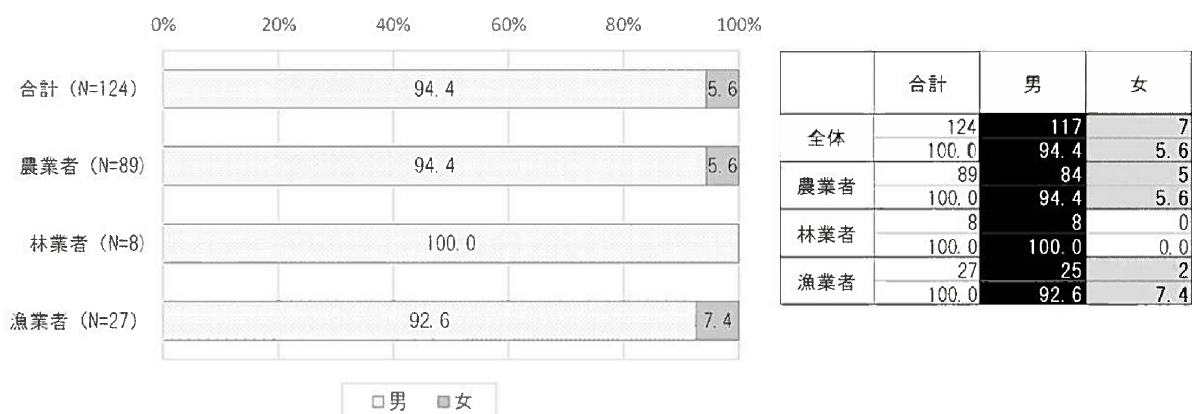


(3) 農林漁業者アンケート調査の結果

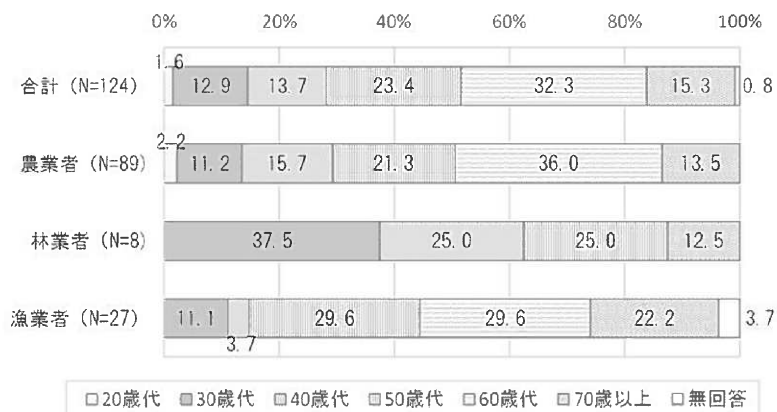
問1 あなたの性別はどちらですか。

「男性」が94.4%、「女性」が5.6%となっている。



問2 あなたの年齢は次のうちどれですか。

「60歳代」が32.3%で最も多い。次いで「50歳代(23.4%)」「70歳以上(15.3%)」となっている。
 農業者は、「60歳代」が36.0%で最も多い。次いで「50歳代(21.3%)」「40歳代(15.7%)」となっている。
 林業者は、「30歳代」が37.5%で最も多い。次いで「40歳代(25.0%)」「50歳代(25.0%)」となっている。
 漁業者は、「50歳代」「60歳代」が29.6%で最も多い。次いで「70歳以上(22.2%)」となっている。



	合計	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答
全体	124	2	16	17	29	40	19	1
	100.0	1.6	12.9	13.7	23.4	32.3	15.3	0.8
農業者	89	2	10	14	19	32	12	0
	100.0	2.2	11.2	15.7	21.3	36.0	13.5	0.0
林業者	8	0	3	2	2	0	1	0
	100.0	0.0	37.5	25.0	25.0	0.0	12.5	0.0
漁業者	27	0	3	1	8	8	6	1
	100.0	0.0	11.1	3.7	29.6	29.6	22.2	3.7

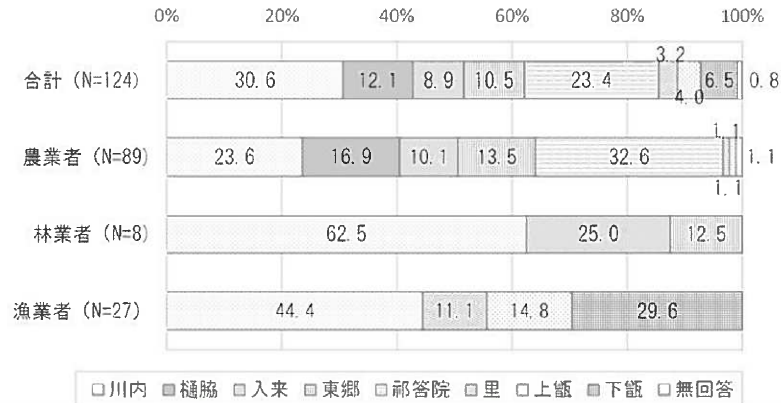
問3 あなたのお住まいの地域は次のうちどれですか。

「川内」が30.6%で最も多い。次いで「祁答院（23.4%）」となっている。

農業者は、「祁答院」が32.6%で最も多い。

林業者は、「川内」が62.5%で最も多い。

漁業者は、「川内」が44.4%で最も多い。

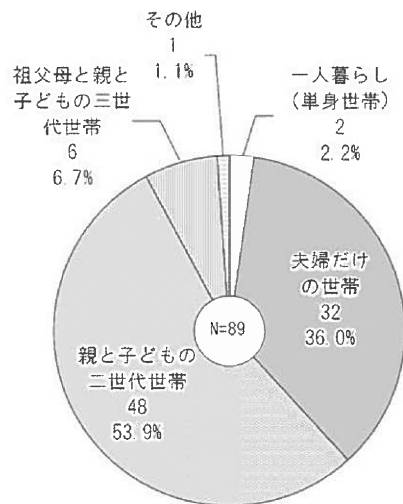


	合計	川内	樋脇	入来	東郷	祁答院	里	上甑	下甑	鹿島	無回答
全体	124	38	15	11	13	29	4	5	8	0	1
	100.0	30.6	12.1	8.9	10.5	23.4	3.2	4.0	6.5	0.0	0.8
農業者	89	21	15	9	12	29	1	1	0	0	1
	100.0	23.6	16.9	10.1	13.5	32.6	1.1	1.1	0.0	0.0	1.1
林業者	8	5	0	2	1	0	0	0	0	0	0
	100.0	62.5	0.0	25.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
漁業者	27	12	0	0	0	0	3	4	8	0	0
	100.0	44.4	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	14.8	29.6	0.0	0.0

※農業者のみ

問4 あなたの家族構成は次のうちどれですか。

「親と子どもの二世帯世帯」が53.9%で最も多い。次いで「夫婦だけの世帯（36.0%）」となっている。



その他の意見
農業法人(企業)

※農業者

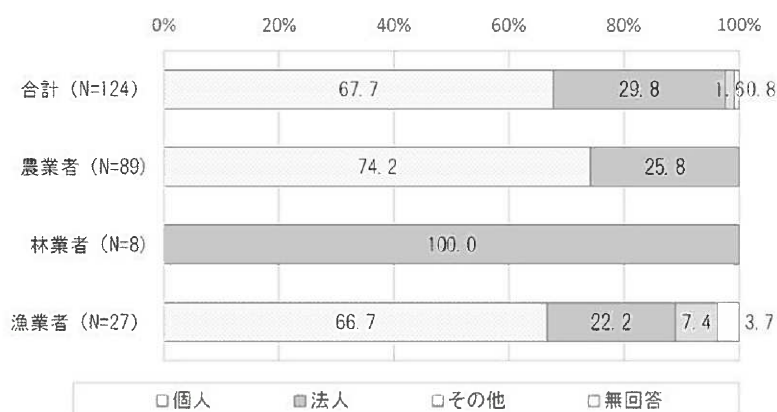
問5 あなたの農業を営んでいる形態は次のうちどれですか
 問14 あなたの経営（会社・法人）の農業従事者の人数は何人ですか。以下のカッコの中に人数をお書きください。

※林業者・漁業者

問4 あなたの林業・漁業を営んでいる形態は次のうちどれですか。あてはまる番号を1つだけ選び、○印をつけてください。また、「2. 法人」を選択した方は、カッコの中に従業者数をお書きください。

「個人」が67.7%で最も多い。

農業者も漁業者も「個人」が最も多いが、林業者は全て「法人」となっている。

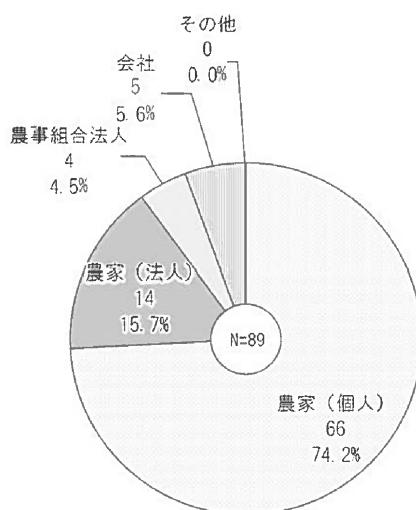


	合計	個人	法人	その他	無回答
全体	124	84	37	2	1
	100.0	67.7	29.8	1.6	0.8
農業者	89	66	23	0	0
	100.0	74.2	25.8	0.0	0.0
林業者	8	0	8	0	0
	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0
漁業者	27	18	6	2	1
	100.0	66.7	22.2	7.4	3.7

【漁業者】

その他の意見
 個人船に従業員として

【農業者（回答の内訳）】



【経営の人数】

経営（会社・法人）の農業従事者の人数は、「2人」が32.6%と最も多く、次いで「3人」が20.2%程度となっている。また、最小人数は1人、最大人数は15人となっている。

法人形態の従業者数は、林業で4～18人、漁業で2～22人となっている。

【農業従事者の人数】



従業員数	件数
1人	12
2人	29
3人	18
4人	9
5人	2
6人	4
8人	4
10人	1
15人	1

【林業者】

従業員数	件数
4人	2
5人	2
7人	1
9人	1
18人	1

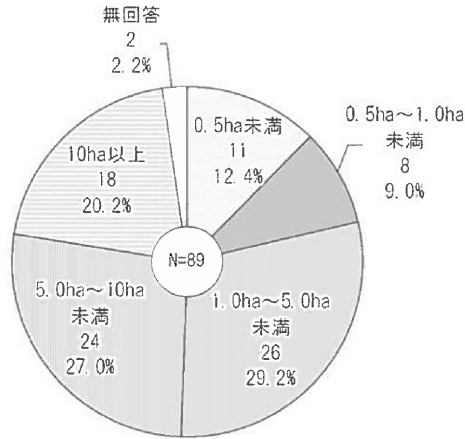
【漁業者】

従業員数	件数
2人	1
3人	1
4人	1
5人	1
6人	1
22人	1

問6 現在、あなたが耕作している農地面積（田畑を含む）は次のうちどれですか。

「1.0ha～5.0ha 未満」が29.2%で最も多い。次いで「5.0ha～10ha 未満」が27.0%となっている。

年齢別で見ると、50歳代以下は「5.0ha～10ha 未満」が最も多く、60歳以上は「1.0ha～5.0ha 未満」が最も多い。

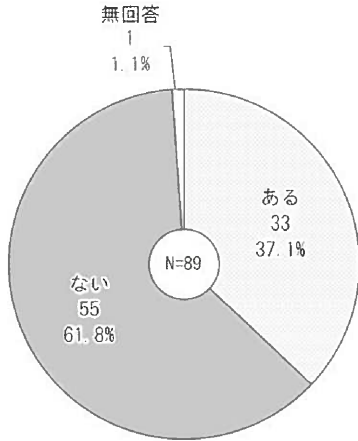


■各属性のクロス集計結果

		合計	0.5ha未満	0.5ha～1.0ha未満	1.0ha～5.0ha未満	5.0ha～10ha未満	10ha以上	無回答
全体		89	11	8	26	24	18	2
		100.0	12.4	9.0	29.2	27.0	20.2	2.2
性別	男	84	11	6	25	22	18	2
		100.0	13.1	7.1	29.8	26.2	21.4	2.4
性別	女	5	0	2	1	2	0	0
		100.0	0.0	40.0	20.0	40.0	0.0	0.0
年齢別	30歳代以下	12	2	1	3	4	2	0
		100.0	16.7	8.3	25.0	33.3	16.7	0.0
	40歳代	14	2	3	3	4	1	1
		100.0	14.3	21.4	21.4	28.6	7.1	7.1
	50歳代	19	0	2	5	7	4	1
		100.0	0.0	10.5	26.3	36.8	21.1	5.3
60歳代	32	5	2	10	7	8	0	
	100.0	15.6	6.3	31.3	21.9	25.0	0.0	
70歳以上	12	2	0	5	2	3	0	
	100.0	16.7	0.0	41.7	16.7	25.0	0.0	
地域別	川内	21	4	2	5	2	6	2
		100.0	19.0	9.5	23.8	9.5	28.6	9.5
	樋脇	15	0	1	7	4	3	0
		100.0	0.0	6.7	46.7	26.7	20.0	0.0
	入来	9	2	2	1	3	1	0
		100.0	22.2	22.2	11.1	33.3	11.1	0.0
	東郷	12	3	1	2	3	3	0
	100.0	25.0	8.3	16.7	25.0	25.0	0.0	
祁答院	29	2	2	10	11	4	0	
	100.0	6.9	6.9	34.5	37.9	13.8	0.0	
甌島	2	0	0	1	0	1	0	
	100.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	
形態	個人	66	8	6	23	16	11	2
		100.0	12.1	9.1	34.8	24.2	16.7	3.0
法人	23	3	2	3	8	7	0	
	100.0	13.0	8.7	13.0	34.8	30.4	0.0	

問7 あなたが所有している農地の中で、耕作していない農地はありますか。また、「1. ある」と回答した方は、耕作していない農地の面積及び、耕作していない理由をお書きください。

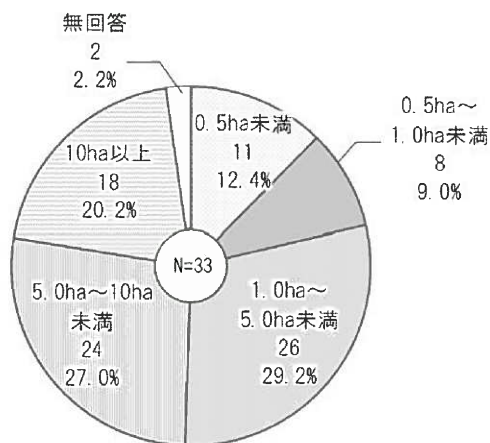
「ない」が61.8%、「ある」が37.1%となっている。



耕作していない理由
水稲育苗用に整地してあるため、耕作できない
手が回らない
山間地で機械が入れない
畑にしたいが、資金不足で客土ができないため
町外のため
水利不能(田)
車両が出入りにくい。日陰
用水の不足
人手が足りない
人手不足
道路幅が狭い及び水路の確保が難しい
作業不便
鳥獣による被害のため
湿田
以前は育苗に使っていたが、今はなし
道路が通行できない
作物を作る上で、耕作の条件が不適地なため
防霜ファンがない
シカ、イノシシ被害が多い
地目は畑であるが、近くに水がなく、耕作していない
水はけが悪い
山間地である
周りの田・畑が遊休農地。周りの土地の地主が他県に住んでいる方
天水田で水の確保が困難
機械が通れない

【耕作放棄地面積】

耕作放棄地面積は、「0.4ha～0.8ha未滿」が45.5%と最も多く、次いで「0.2ha～0.4ha」が21.2%となっている。また、最小面積は0.02ha、最大面積は2haとなっている。



農地の面積 (ha)	件数
0.02	1
0.05	1
0.1	2
0.15	3
0.2	5
0.3	2
0.4	2
0.5	9
0.6	3
0.7	1
1.2	1
2	2

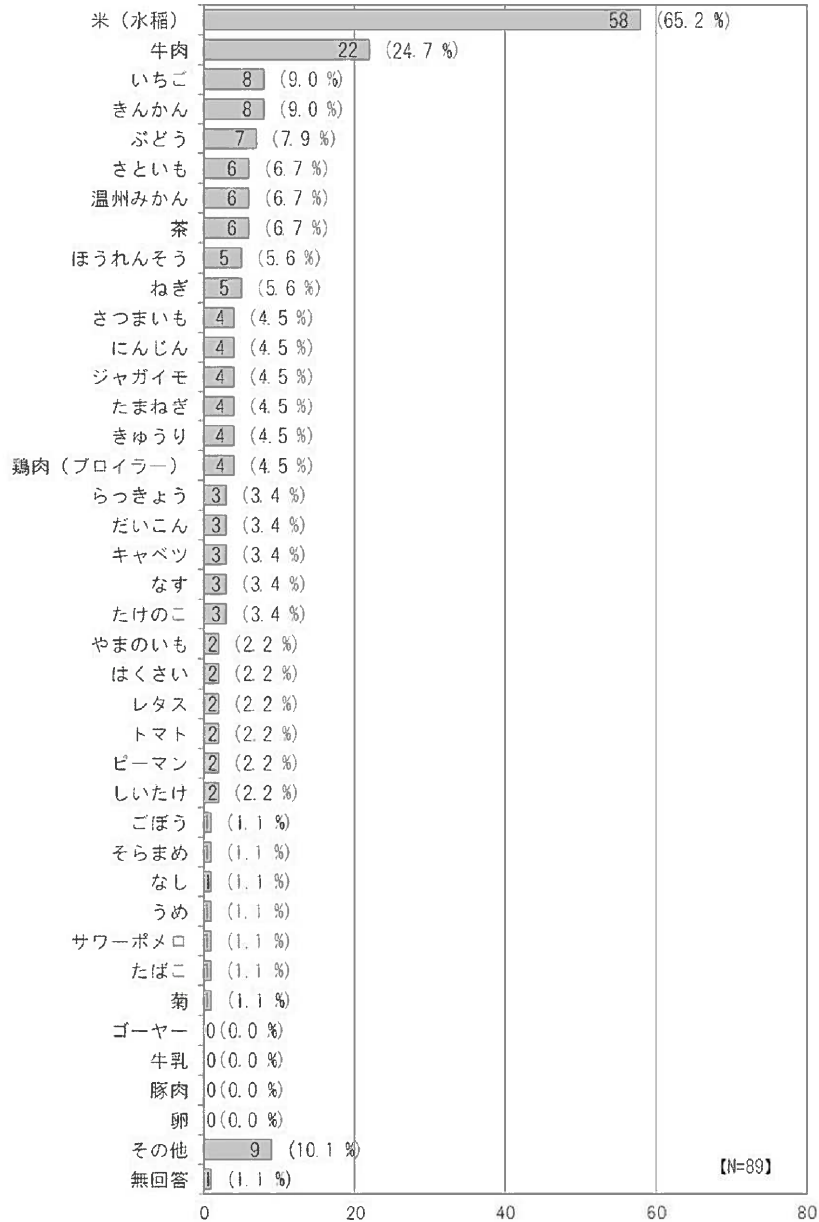
■各属性のクロス集計結果

		合計	ある	ない	無回答
全体		89	33	55	1
		100.0	37.1	61.8	1.1
性別	男	84	32	51	1
		100.0	38.1	60.7	1.2
	女	5	1	4	0.0
		100.0	20.0	80.0	0.0
年齢別	30歳代以下	12	2	10	0
		100.0	16.7	83.3	0.0
	40歳代	14	2	11	1
		100.0	14.3	78.6	7.1
	50歳代	19	8	11	0
		100.0	42.1	57.9	0.0
60歳代	32	14	18	0	
	100.0	43.8	56.3	0.0	
70歳以上	12	7	5	0	
	100.0	58.3	41.7	0.0	
地域別	川内	21	7	13	1
		100.0	33.3	61.9	4.8
	樋脇	15	7	8	0
		100.0	46.7	53.3	0.0
	入来	9	4	5	0
		100.0	44.4	55.6	0.0
	東郷	12	7	5	0
100.0		58.3	41.7	0.0	
祁答院	29	6	23	0	
	100.0	20.7	79.3	0.0	
甌島	2	1	1	0	
	100.0	50.0	50.0	0.0	
形態	個人	66	25	40	1
		100.0	37.9	60.6	1.5
	法人	23	8	15	0
	100.0	34.8	65.2	0.0	

問8 あなたの家（法人・会社）の経営作物は次のうちどれですか。（複数回答）

「米（水稻）」が65.2%で最も多い。

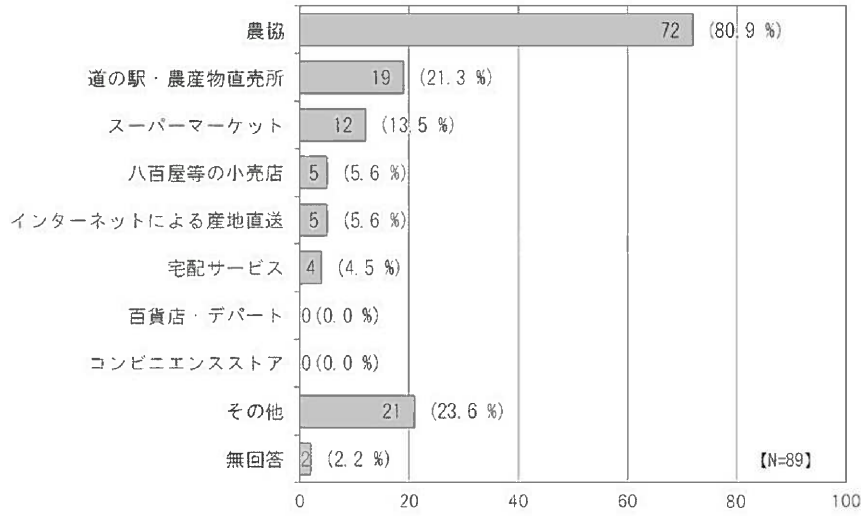
農業形態別にみると、個人では「米（水稻）」が7割強と突出して多いものの、そのほかの品目にもまんべんなく回答がみられる。一方で、法人では「米（水稻）」が4割強、「茶」が2割程度、「牛肉」が2割弱となっており、一部の品目に偏っている傾向がみられる。



その他の意見
大麦
花
肉用牛子牛生産
パッションフルーツ
プロッコリー
桑
大麦若葉
施設花卉（鉢花・花壇苗）
大豆

問9 問8で回答した経営作物の主要な出荷先は次のうちどこですか。(複数回答)

「農協」が80.9%で最も多い。



その他の意見	件数
市場	5
個人	3
食肉加工会社	3
JT	1
花卉卸売会社、市場	1
自社店舗での販売	1
酒造会社	1
水稲100% (WCS)自給体系。肥育牛は会社系販売窓口	1
青果会社	1
青果問屋	1
直接販売	1
米問屋	1
無人販売	1

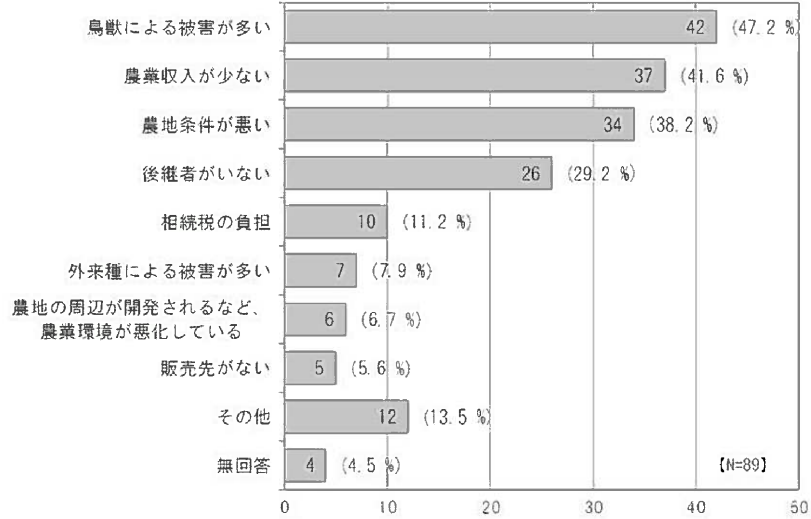
■各属性のクロス集計結果

		合計	農協	スーパーマーケット	八百屋等の小売店	道の駅・農産物直売所	百貨店・デパート	コンビニエンスストア	インターネットによる産地直送	宅配サービス	その他	無回答
全体		89	72	12	5	19	0	0	5	4	21	2
		100.0	80.9	13.5	5.6	21.3	0.0	0.0	5.6	4.5	23.6	2.2
性別	男	84	69	12	5	18	0	0	5	4	21	0
		100.0	82.1	14.3	6.0	21.4	0.0	0.0	6.0	4.8	25.0	0.0
性別	女	5	3	0	0	1	0	0	0	0	0	2
		100.0	60.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0
年齢別	30歳代以下	12	9	4	0	1	0	0	3	0	3	0
		100.0	75.0	33.3	0.0	8.3	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0
	40歳代	14	8	1	1	2	0	0	1	0	5	2
		100.0	57.1	7.1	7.1	14.3	0.0	0.0	7.1	0.0	35.7	14.3
	50歳代	19	18	1	2	5	0	0	0	1	7	0
		100.0	94.7	5.3	10.5	26.3	0.0	0.0	0.0	5.3	36.8	0.0
	60歳代	32	28	4	1	7	0	0	1	3	3	0
	100.0	87.5	12.5	3.1	21.9	0.0	0.0	3.1	9.4	9.4	0.0	
年齢別	70歳以上	12	9	2	1	4	0	0	0	0	3	0
		100.0	75.0	16.7	8.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0
地域別	川内	21	13	5	2	6	0	0	0	0	9	0
		100.0	61.9	23.8	9.5	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	42.9	0.0
	樋脇	15	15	2	1	4	0	0	0	0	3	0
		100.0	100.0	13.3	6.7	26.7	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0
	入来	9	7	0	0	1	0	0	0	0	2	1
		100.0	77.8	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	22.2	11.1
	東郷	12	10	3	2	4	0	0	3	2	2	0
	100.0	83.3	25.0	16.7	33.3	0.0	0.0	25.0	16.7	16.7	0.0	
地域別	祁答院	29	25	2	0	4	0	0	1	1	4	1
		100.0	86.2	6.9	0.0	13.8	0.0	0.0	3.4	3.4	13.8	3.4
地域別	梶島	2	1	0	0	0	0	0	1	1	1	0
		100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	50.0	0.0
形態	個人	66	53	7	1	13	0	0	1	3	14	2
		100.0	80.3	10.6	1.5	19.7	0.0	0.0	1.5	4.5	21.2	3.0
形態	法人	23	19	5	4	6	0	0	4	1	7	0
		100.0	82.6	21.7	17.4	26.1	0.0	0.0	17.4	4.3	30.4	0.0

問10 あなたが農業を続ける上で問題となっていることは何ですか。(複数回答)

「鳥獣による被害が多い」が47.2%で最も多い。次いで「農業収入が少ない(41.6%)」「農地条件が悪い(38.2%)」となっている。

年齢別で見ると、40歳代以下は「農業収入が少ない」が最も多く、50歳以上は「鳥獣による被害が多い」が最も多い。



その他の意見	
施設を台風などの災害に耐えるように強化ができていない	
経費が高い	
多忙期の人手不足	
害虫駆除	
収穫等の人員確保	
高齢化	
加齢と共に草払い、農薬散布等の作業が苦になったため	
害虫による被害が多い	
農機具が壊れている	
年々労働者を確保するのが難しい	
繁忙期の労働が過密で閑期との労働のバランスが悪く、常時雇用を入れづらい	
雇用問題	

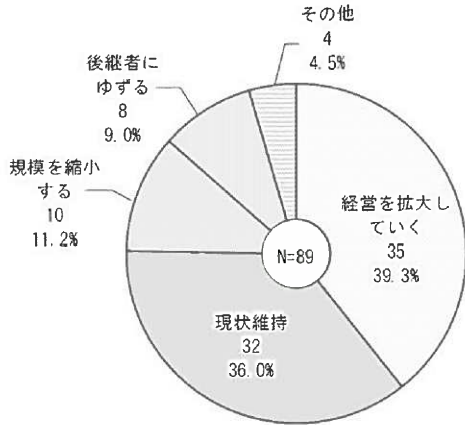
■各属性のクロス集計結果

		合計	相続税の負担	後継者がいない	農業収入が少ない	販売先がない	鳥獣による被害が多い	外来種による被害が多い	農地の周辺が開発されるなど、農業環境が悪化している	農地条件が悪い	その他	無回答
全体		89	10	26	37	5	42	7	6	34	12	4
		100.0	11.2	29.2	41.6	5.6	47.2	7.9	6.7	38.2	13.5	4.5
性別	男	84	9	25	36	5	39	7	6	34	11	4
		100.0	10.7	29.8	42.9	6.0	46.4	8.3	7.1	40.5	13.1	4.8
性別	女	5	1	1	1	0	3	0	0	0	1	0
		100.0	20.0	20.0	20.0	0.0	60.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0
年齢別	30歳代以下	12	2	2	6	2	3	0	0	5	1	1
		100.0	16.7	16.7	50.0	16.7	25.0	0.0	0.0	41.7	8.3	8.3
	40歳代	14	2	3	8	1	4	0	0	5	4	1
		100.0	14.3	21.4	57.1	7.1	28.6	0.0	0.0	35.7	28.6	7.1
	50歳代	19	0	5	8	0	11	2	2	10	3	1
		100.0	0.0	26.3	42.1	0.0	57.9	10.5	10.5	52.6	15.8	5.3
60歳代	32	3	12	9	2	16	4	2	11	3	1	
	100.0	9.4	37.5	28.1	6.3	50.0	12.5	6.3	34.4	9.4	3.1	
70歳以上	12	3	4	6	0	8	1	2	3	1	0	
	100.0	25.0	33.3	50.0	0.0	66.7	8.3	16.7	25.0	8.3	0.0	
地域別	川内	21	3	6	10	1	9	4	5	7	5	1
		100.0	14.3	28.6	47.6	4.8	42.9	19.0	23.8	33.3	23.8	4.8
	樋脇	15	0	2	7	1	5	1	0	5	2	3
		100.0	0.0	13.3	46.7	6.7	33.3	6.7	0.0	33.3	13.3	20.0
	入来	9	2	4	1	0	4	0	0	4	2	0
		100.0	22.2	44.4	11.1	0.0	44.4	0.0	0.0	44.4	22.2	0.0
東郷	12	1	5	6	1	9	0	0	1	0	0	
	100.0	8.3	41.7	50.0	8.3	75.0	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0	
祁答院	29	4	7	11	1	14	2	1	15	2	0	
	100.0	13.8	24.1	37.9	3.4	48.3	6.9	3.4	51.7	6.9	0.0	
熊島	2	0	1	2	1	0	0	0	1	1	0	
	100.0	0.0	50.0	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	
形態	個人	66	6	21	24	2	31	6	5	26	8	3
		100.0	9.1	31.8	36.4	3.0	47.0	9.1	7.6	39.4	12.1	4.5
法人	23	4	5	13	3	11	1	1	8	4	1	
	100.0	17.4	21.7	56.5	13.0	47.8	4.3	4.3	34.8	17.4	4.3	

問 11 あなたは、自身の農業の経営について、今後（概ね5年以内に）どのようにしていこうと考えていますか。

「経営を拡大していく」が39.3%で最も多い。次いで「現状維持（36.0%）」となっている。

年齢別で見ると、40歳代以下は「経営を拡大していく」が最も多く、50歳代～60歳代は「現状維持」が最も多く、70歳以上は「規模を縮小する」が最も多い。



その他の意見
後継者を見つける
品質の向上。反収の増加（量、収入）
作物の収穫の安定
他の事業もする予定

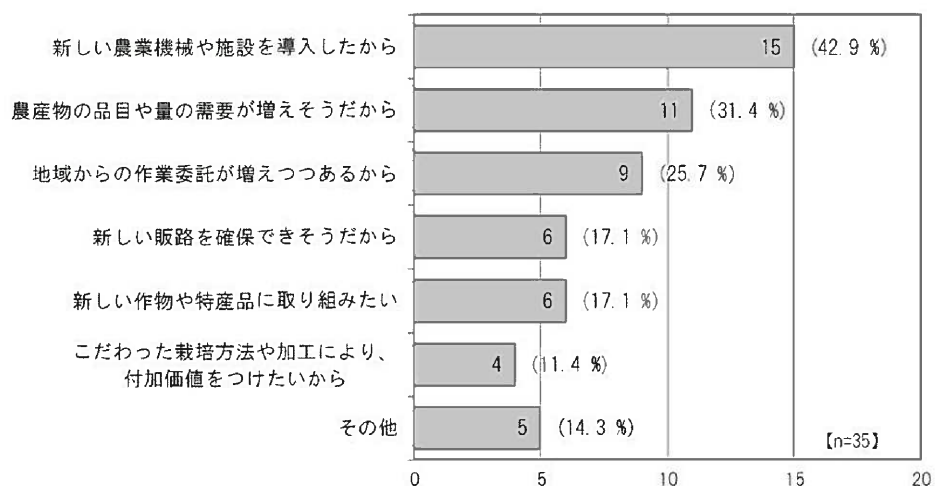
■各属性のクロス集計結果

		合計	経営を拡大していく	現状維持	規模を縮小する	後継者にゆずる	その他
全体		89	35	32	10	8	4
		100.0	39.3	36.0	11.2	9.0	4.5
性別	男	84	33	30	9	8	4
		100.0	39.3	35.7	10.7	9.5	4.8
	女	5	2	2	1	0	0
		100.0	40.0	40.0	20.0	0.0	0.0
年齢別	30歳代以下	12	9	2	0	0	1
		100.0	75.0	16.7	0.0	0.0	8.3
	40歳代	14	11	2	0	0	1
		100.0	78.6	14.3	0.0	0.0	7.1
	50歳代	19	9	10	0	0	0
		100.0	47.4	52.6	0.0	0.0	0.0
	60歳代	32	6	15	5	5	1
		100.0	18.8	46.9	15.6	15.6	3.1
	70歳以上	12	0	3	5	3	1
		100.0	0.0	25.0	41.7	25.0	8.3
地域別	川内	21	8	7	2	2	2
		100.0	38.1	33.3	9.5	9.5	9.5
	樋脇	15	7	5	0	3	0
		100.0	46.7	33.3	0.0	20.0	0.0
	入来	9	4	3	1	1	0
		100.0	44.4	33.3	11.1	11.1	0.0
	東郷	12	3	6	1	1	1
	100.0	25.0	50.0	8.3	8.3	8.3	
	祁答院	29	13	10	5	1	0
		100.0	44.8	34.5	17.2	3.4	0.0
	甌島	2	0	0	1	0	1
		100.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0
形態	個人	66	25	27	10	3	1
		100.0	37.9	40.9	15.2	4.5	1.5
	法人	23	10	5	0	5	3
		100.0	43.5	21.7	0.0	21.7	13.0

※問 11 で「1. 経営を拡大していく」を選択された方にお聞きします。

問 12 農業経営を拡大する理由は何ですか。(複数回答)

「新しい農業機械や施設を導入したから」が42.9%で最も多い。次いで「農産物の品目や量の需要が増えそうだから(31.4%)」となっている。



その他の意見	件数
収入を増やしたい	2
薄利だから	1
作付面積の増加	1
作業環境を整備するため	1

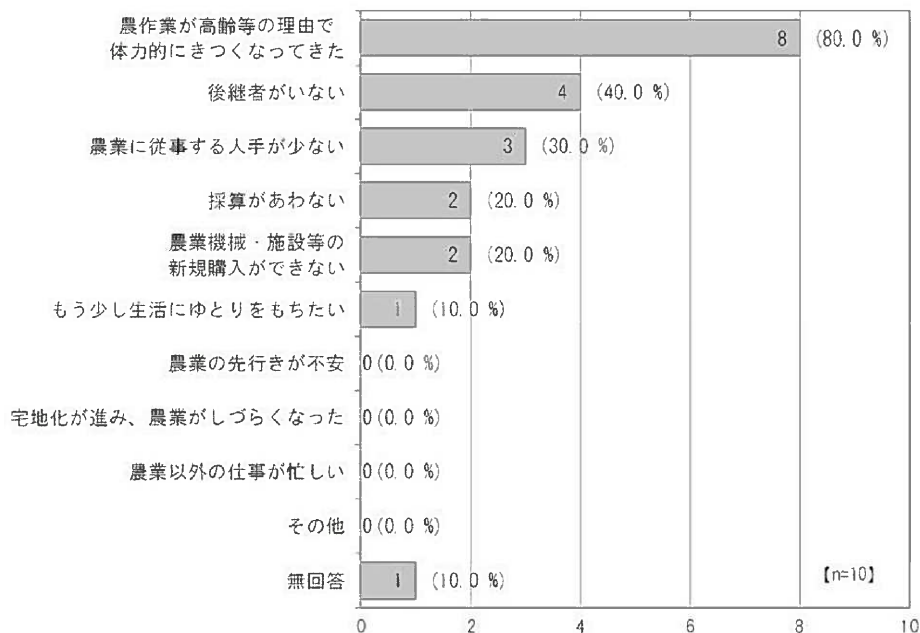
■各属性のクロス集計結果

		合計	新しい販路を確保できそうだから	農産物の品目や量の需要が増えそうだから	新しい作物や特産品に取り組みたい	地域からの作業委託が増えつつあるから	こだわった栽培方法や加工により、付加価値をつけたいから	新しい農業機械や施設を導入したから	その他
全体		35	6	11	6	9	4	15	5
		100.0	17.1	31.4	17.1	25.7	11.4	42.9	14.3
性別	男	33	6	11	6	9	4	13	5
		100.0	18.2	33.3	18.2	27.3	12.1	39.4	15.2
性別	女	2	0	0	0	0	0	2	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
年齢別	30歳以下	9	1	3	1	1	0	3	2
		100.0	11.1	33.3	11.1	11.1	0.0	33.3	22.2
	40歳代	11	4	1	3	1	4	7	2
		100.0	36.4	9.1	27.3	9.1	36.4	63.6	18.2
	50歳代	9	1	5	2	4	0	3	1
		100.0	11.1	55.6	22.2	44.4	0.0	33.3	11.1
年齢別	60歳代	6	0	2	0	3	0	2	0
		100.0	0.0	33.3	0.0	50.0	0.0	33.3	0.0
年齢別	70歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
地域別	川内	8	2	4	1	4	0	1	1
		100.0	25.0	50.0	12.5	50.0	0.0	12.5	12.5
	樋脇	7	1	2	3	2	0	4	0
		100.0	14.3	28.6	42.9	28.6	0.0	57.1	0.0
	入来	4	0	0	0	0	1	3	2
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	75.0	50.0
	東郷	3	1	2	1	0	1	0	0
	100.0	33.3	66.7	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	
地域別	祁答院	13	2	3	1	3	2	7	2
		100.0	15.4	23.1	7.7	23.1	15.4	53.8	15.4
地域別	甕島	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
形態	個人	25	2	8	3	8	2	12	4
		100.0	8.0	32.0	12.0	32.0	8.0	48.0	16.0
形態	法人	10	4	3	3	1	2	3	1
		100.0	40.0	30.0	30.0	10.0	20.0	30.0	10.0

※問 11 で「3 規模を縮小する」を選択された方にお聞きします。

問 13 農業経営の規模を縮小する理由は何ですか。(複数回答)

「農作業が高齢等の理由で体力的にきつくなってきた」が 80.0%で最も多い。



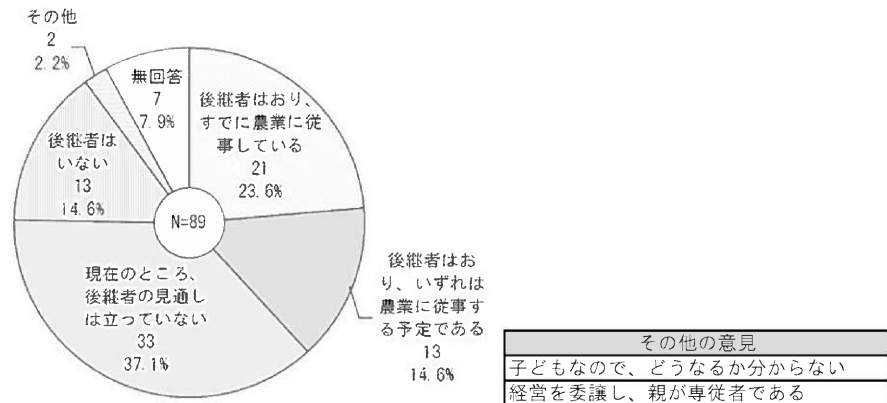
■各属性のクロス集計結果

	合計	理由											
		農業の先行きが不安	宅地化が進み、農業がしづらなくなった	採算があわない	農業機械・施設等の新規購入ができない	農業に従事する人手が少ない	もう少し生活にゆとりをもちたい	農業以外の仕事が忙しい	後継者がいない	農作業が高齢等の理由で体力的にきつくなってきた	その他	無回答	
全体	10	0	0	2	2	3	1	0	4	8	0	1	
	100.0	0.0	0.0	20.0	20.0	30.0	10.0	0.0	40.0	80.0	0.0	10.0	
性別	男	9	0	0	2	2	3	1	0	3	7	0	1
	100.0	0.0	0.0	22.2	22.2	33.3	11.1	0.0	33.3	77.8	0.0	11.1	
	女	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	
年齢別	30歳以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	40歳代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	50歳代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
60歳代	5	0	0	1	1	2	1	0	3	4	0	0	
100.0	0.0	0.0	20.0	20.0	40.0	20.0	0.0	60.0	80.0	0.0	0.0		
70歳以上	5	0	0	1	1	1	0	0	1	4	0	1	
100.0	0.0	0.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	20.0	80.0	0.0	20.0		
地域別	川内	2	0	0	0	0	1	1	0	2	2	0	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	
	播磨	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	入来	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
	東郷	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	
100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0		
祁答院	5	0	0	1	1	1	0	0	1	5	0	0	
100.0	0.0	0.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	20.0	100.0	0.0	0.0		
瓶島	1	0	0	1	1	1	0	0	1	0	0		
100.0	0.0	0.0	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0		
形態	個人	10	0	0	2	2	3	1	0	4	0	0	
	100.0	0.0	0.0	20.0	20.0	30.0	10.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0	
	法人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		

問 15 あなたの経営（会社・法人）には、農業の後継者がいますか。

「現在のところ、後継者の見通しは立っていない」が37.1%で最も多い。次いで「後継者はおり、すでに農業に従事している（23.6%）」となっている。

年齢別で見ると、50歳代以下は「現在のところ、後継者の見通しは立っていない」が最も多く、60歳代は「後継者はおり、すでに農業に従事している」が最も多く、70歳以上は「後継者はおり、いずれは農業に従事する予定である」が最も多い。

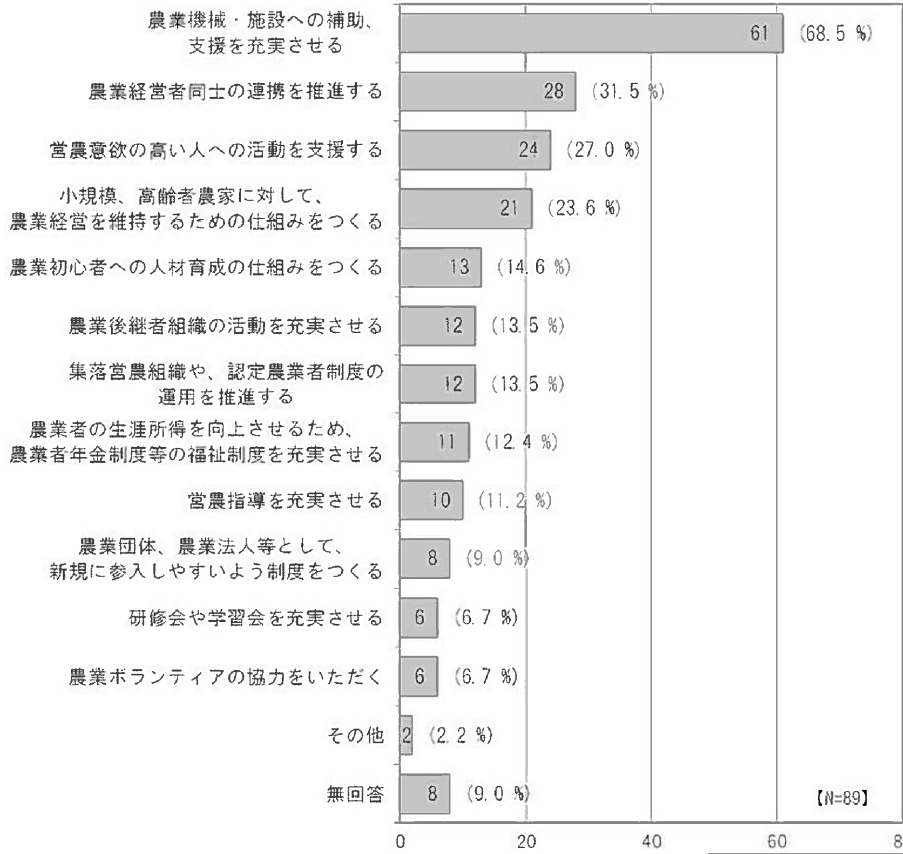


■各属性のクロス集計結果

		合計	後継者はおり、すでに農業に従事している	後継者はおり、いずれは農業に従事する予定である	現在のところ、後継者の見通しは立っていない	後継者がいない	その他	無回答
全体		89	21	13	33	13	2	7
		100.0	23.6	14.6	37.1	14.6	2.2	7.9
性別	男	84	19	13	32	12	1	7
		100.0	22.6	15.5	38.1	14.3	1.2	8.3
性別	女	5	2	0	1	1	1	0
		100.0	40.0	0.0	20.0	20.0	20.0	0.0
年齢別	30歳代以下	12	2	3	4	2	1	0
		100.0	16.7	25.0	33.3	16.7	8.3	0.0
	40歳代	14	2	2	8	1	1	0
		100.0	14.3	14.3	57.1	7.1	7.1	0.0
	50歳代	19	3	2	10	2	0	2
		100.0	15.8	10.5	52.6	10.5	0.0	10.5
年齢別	60歳代	32	11	2	10	7	0	2
		100.0	34.4	6.3	31.3	21.9	0.0	6.3
	70歳以上	12	3	4	1	1	0	3
	100.0	25.0	33.3	8.3	8.3	0.0	25.0	
地域別	川内	21	5	1	9	3	1	2
		100.0	23.8	4.8	42.9	14.3	4.8	9.5
	樋脇	15	6	2	3	2	0	2
		100.0	40.0	13.3	20.0	13.3	0.0	13.3
	入来	9	1	2	4	0	1	1
		100.0	11.1	22.2	44.4	0.0	11.1	11.1
	東郷	12	3	3	3	2	0	1
	100.0	25.0	25.0	25.0	16.7	0.0	8.3	
地域別	祁答院	29	6	5	12	5	0	1
		100.0	20.7	17.2	41.4	17.2	0.0	3.4
	甌島	2	0	0	1	1	0	0
	100.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	
形態	個人	66	10	10	25	12	2	7
		100.0	15.2	15.2	37.9	18.2	3.0	10.6
形態	法人	23	11	3	8	1	0	0
		100.0	47.8	13.0	34.8	4.3	0.0	0.0

問 16 農業の担い手育成や確保のためには、あなたはどのような取組が必要だと思いますか。
(複数回答)

「農業機械・施設への補助、支援を充実させる」が68.5%で最も多い。



その他の意見
所得の安定。高収益の実現が見えること
全く考えていない

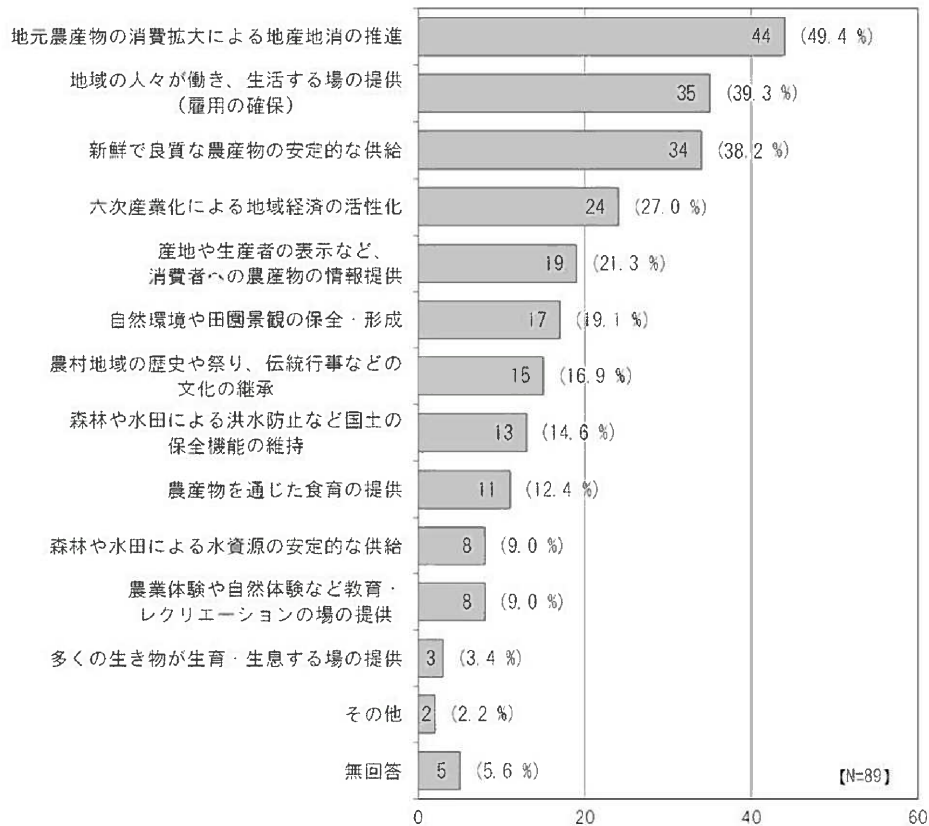
■各属性のクロス集計結果

	合計	農業経営者同士の連携を推進する	農業後継者組織の活動を充実させる	農業機械・施設への補助、支援を充実させる	営農意欲の高い人への活動を支援する	農業初心者への人材育成の仕組みをつくる	集落営農組織や、認定農業者制度の運用を推進する	小規模、高齢者農家に対して、農業経営を維持するための仕組みをつくる	農業団体、農業法人等として、新規に参入しやすいよう制度をつくる	営農指導を充実させる	研修会や学習会を充実させる	農業ボランティアの協力をいただく	農業者の生涯所得を向上させるため、農業者年金制度等の福祉制度を充実させる	その他	無回答
		全体	89	28	12	61	24	13	12	21	8	10	6	6	11
性別	男	84	26	11	56	24	13	10	19	8	9	6	6	10	2
	女	5	2	1	5	0	0	2	2	0	1	0	0	1	0
年齢別	30歳以下	12	2	2	8	5	1	1	1	3	0	1	3	0	1
	40歳代	14	6	1	12	7	2	1	4	0	1	3	0	1	0
	50歳代	19	7	3	14	4	4	0	6	0	2	0	2	2	1
	60歳代	32	10	6	20	8	6	6	6	4	7	2	1	4	2
	70歳以上	12	3	0	7	0	0	4	4	1	0	1	2	1	0
	無回答	100.0	25.0	0.0	58.3	0.0	0.0	33.3	33.3	8.3	0.0	8.3	16.7	8.3	0.0
地域別	川内	21	7	0	13	6	4	3	6	2	2	3	1	3	0
	塩竈	15	6	4	10	5	0	1	28.6	9.5	14.3	4.8	14.3	0.0	9.5
	入京	9	2	2	6	3	1	1	2	1	0	1	1	0	1
	東郷	12	3	0	6	4	3	2	4	1	0	1	2	1	1
	祁答院	29	9	5	24	5	4	5	6	3	2	2	3	2	2
	断島	2	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0
形態	個人	65	19	9	43	14	10	11	19	5	7	4	7	2	8
	法人	23	9	3	18	10	3	1	2	3	2	2	4	0	0
無回答	100.0	39.1	13.0	78.3	43.5	13.0	4.3	8.7	13.0	13.0	8.7	8.7	17.4	0.0	

問 17 あなたは、薩摩川内市の農業・農村がどのような役割を果たしていくことが重要であるとお考えですか。（複数回答）

「地元農産物の消費拡大による地産地消の推進」が49.4%で最も多い。次いで「地域の人々が働き、生活する場の提供（雇用の確保）（39.3%）」「新鮮で良質な農産物の安定的な供給（38.2%）」となっている。

年齢別で見ると、60歳代以下は「地元農産物の消費拡大による地産地消の推進」が最も多く、70歳以上は「新鮮で良質な農産物の安定的な供給」が最も多い。



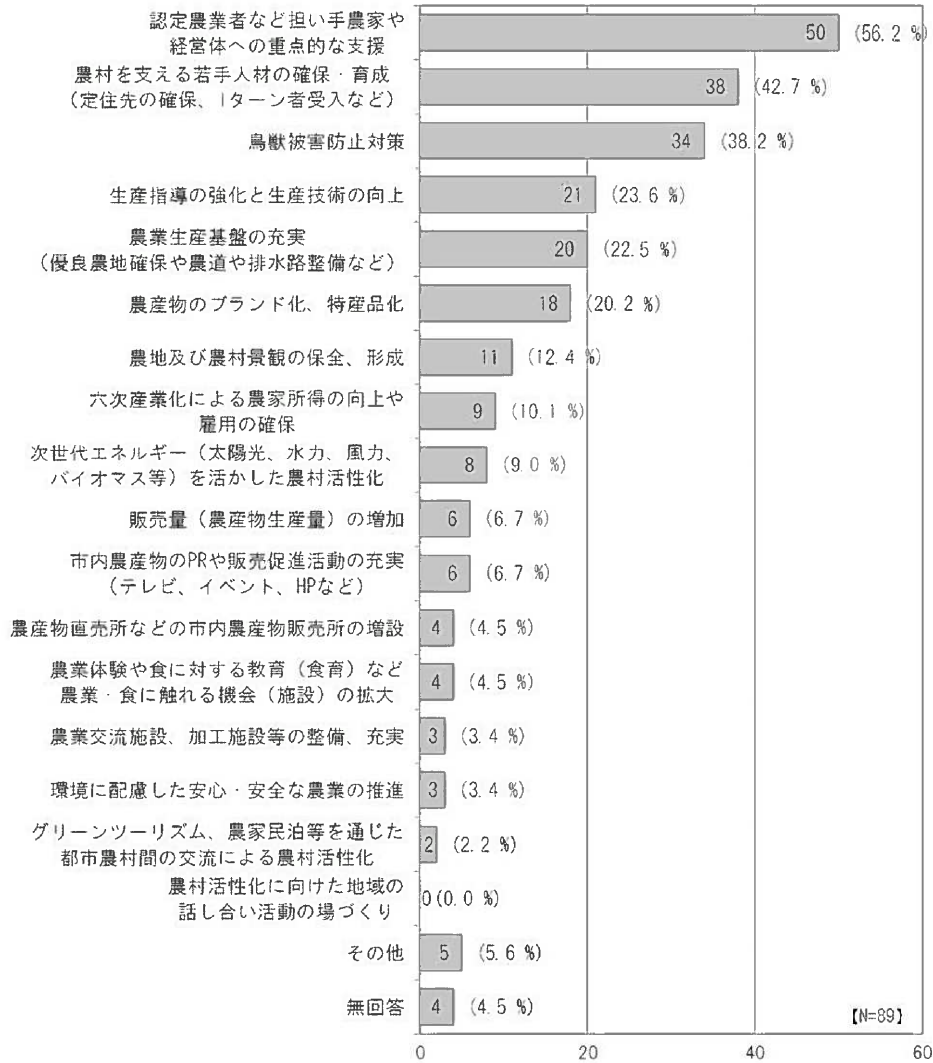
その他の意見
花育の提供
サポート（農家への）

■各属性のクロス集計結果

	合計	新鮮で良質な農産物の安定的な供給	産地や生産者の表示など、消費者への農産物の産地産源の情報提供	地元農産物の消費拡大による産地産源の推進	六次産業化による地域経済の活性化	地域の人々が働き、生活する場の提供（雇用の確保）	多くの生き物が生息する場の提供	森林や水田による洪水防止など国土の保全機能の維持	森林や水田による水資源の安定的な供給	自然環境や田園景観の保全・形成	農産物体験や自然体験など教育・レクリエーションの場の提供	農産物を通じた食育の提供	農村地域の歴史や祭り、伝統行事などの文化の継承	その他	無回答	
全体	89 100.0	34 38.2	19 21.3	44 49.4	24 27.0	35 39.3	3 3.4	13 14.6	8 9.0	17 19.1	8 9.0	11 12.4	15 16.9	2 2.2	5 5.6	
性別	男	64 100.0	33 39.3	19 22.6	43 51.2	24 28.6	38 38.1	1 1.2	12 14.3	7 8.3	17 20.2	8 9.5	10 11.9	14 16.7	2 2.4	5 6.0
	女	5 100.0	1 20.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	3 60.0	2 40.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0
年齢別	30歳代以下	12 100.0	4 33.3	2 16.7	7 58.3	5 41.7	5 41.7	0 0.0	2 16.7	0 0.0	1 8.3	0 0.0	2 16.7	1 8.3	0 0.0	1 8.3
	40歳代	14 100.0	5 35.7	3 21.4	7 50.0	4 28.6	6 42.9	1 7.1	2 14.3	2 14.3	2 14.3	0 0.0	3 21.4	1 7.1	2 14.3	0 0.0
	50歳代	19 100.0	6 31.6	4 21.1	10 52.6	3 15.8	7 36.8	0 0.0	3 15.8	0 0.0	5 26.3	3 15.8	3 15.8	4 21.1	0 0.0	2 10.5
	60歳代	32 100.0	12 37.5	8 25.0	15 46.9	11 34.4	13 40.6	1 3.1	5 15.6	6 18.8	8 25.0	3 9.4	3 9.4	5 15.6	0 0.0	1 3.1
	70歳以上	12 100.0	7 58.3	2 16.7	5 41.7	1 8.3	4 33.3	1 8.3	1 8.3	0 0.0	1 8.3	2 16.7	2 16.7	4 33.3	0 0.0	1 8.3
	地域別	川内	21 100.0	8 38.1	3 14.3	11 52.4	4 19.0	10 47.6	1 4.8	3 14.3	1 4.8	3 14.3	1 4.8	0 0.0	14 14.3	4 4.8
	磯脇	15 100.0	3 20.0	5 33.3	5 33.3	5 33.3	3 20.0	0 0.0	3 20.0	0 0.0	3 20.0	2 13.3	2 13.3	3 20.0	0 0.0	0 0.0
	入次	9 100.0	3 33.3	2 22.2	3 33.3	3 33.3	5 55.6	0 0.0	2 22.2	0 0.0	1 11.1	1 11.1	3 33.3	2 22.2	0 0.0	0 0.0
	東郷	12 100.0	7 58.3	3 25.0	7 58.3	2 16.7	5 41.7	0 0.0	1 8.3	1 8.3	6 50.0	0 0.0	1 8.3	1 8.3	0 0.0	0 0.0
	谷谷院	29 100.0	13 44.8	5 17.2	10 34.5	9 31.0	11 37.9	2 6.9	4 13.8	5 17.2	4 13.8	3 10.3	4 13.8	5 17.2	1 3.4	2 6.9
	飯島	2 100.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
形態	個人	66 100.0	27 40.9	14 21.2	30 45.5	13 19.7	23 34.8	3 4.5	12 18.2	7 10.6	13 19.7	5 7.6	10 15.2	13 19.7	1 1.5	5 7.6
	法人	23 100.0	7 30.4	5 21.7	14 60.9	1 4.7	11 52.2	0 0.0	1 4.3	1 4.3	4 17.4	3 13.0	1 4.3	2 8.7	1 4.3	0 0.0

問 18 あなたは、薩摩川内市の農業・農村を振興していくためにどのようなことが必要だと思いますか。(複数回答)

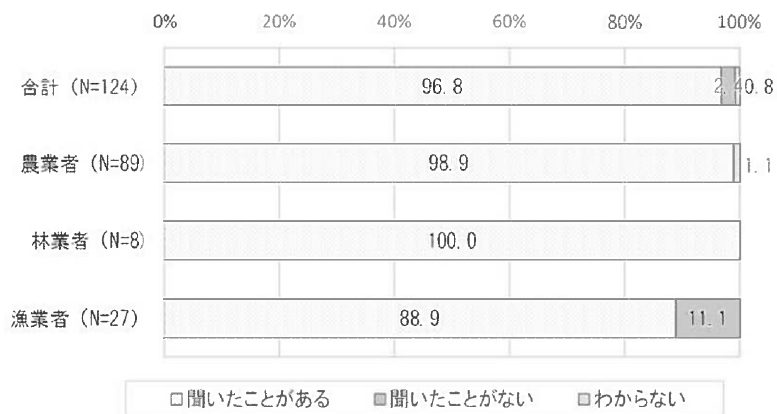
「認定農業者など担い手農家や経営体への重点的な支援」が56.2%で最も多い。次いで「農村を支える若手人材の確保・育成(定住先の確保、1ターン者受入など)(42.7%)」となっている。



その他の意見
販売先の拡大
農業従事者の確保への支援
「認定農業者など担い手農家や経営体への重点的な支援」のような限定されたものではなく、農村を守っている中高年に対する支援を充実しないと守る人々が益々いなくなる(意欲がなくなる人が多い)
人手不足を解消する施策→市が主体となった外国人の受入れ
急激な高齢化で荒廃する農地を現状維持するために、農地の集約に対して、手続き等を更に簡素化しなければならない

問 19 (問 5) ※六次産業化という言葉を知っていますか。

「知っています」が 96.8%で最も多い。



	合計	知っています	知りません	わかりません
全体	124	120	3	1
	100.0	96.8	2.4	0.8
農業者	89	88	0	1
	100.0	98.9	0.0	1.1
林業者	8	8	0	0
	100.0	100.0	0.0	0.0
漁業者	27	24	3	0
	100.0	88.9	11.1	0.0

※ (カッコ) 内に示す設問番号は、林業者及び漁業者アンケートの設問番号を表す。

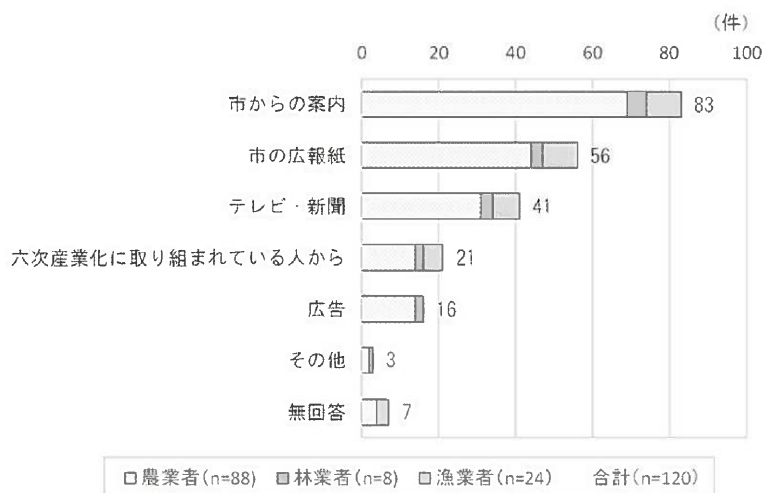
例) 問 19 (問 5)・・・農業者アンケート問 19、林業者アンケート・漁業者アンケート問 5

※問19で「1. 聞いたことがある」を選択された方にお聞きします。(農業者)

※問5で「1. 聞いたことがある」を選択された方にお聞きします。(林業者・漁業者)

問20-1(問6-1) 六次産業化という言葉は何で聞いたことがありますか。(複数回答)

「市からの案内」が69.2%で最も多い。



	合計	テレビ・新聞	広告	市の広報紙	市からの案内	六次産業化に取り組まれている人から	その他	無回答
全体	120	41	16	56	83	21	3	7
	100.0	34.2	13.3	46.7	69.2	17.5	2.5	5.8
農業者	88	31	14	44	69	14	2	4
	100.0	35.2	15.9	50.0	78.4	15.9	2.3	4.5
林業者	8	3	2	3	5	2	0	0
	100.0	37.5	25.0	37.5	62.5	25.0	0.0	0.0
漁業者	24	7	0	9	9	5	1	3
	100.0	29.2	0.0	37.5	37.5	20.8	4.2	12.5

【農業者】

その他の意見
意味のない質問
本など

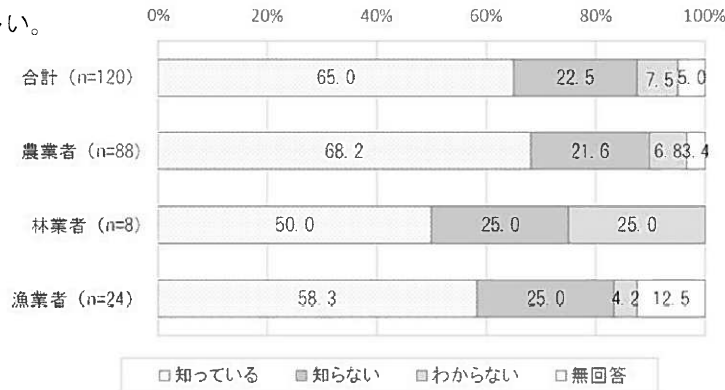
【漁業者】

その他の意見
している

問 20-2 (問 6-2) 本市では、市の重要な産業である農林漁業の振興及び農林漁業経営の改善を図ることを目的に、農林漁業者が主体的に取り組む六次産業化を促進するため、平成25年7月に「薩摩川内市農林漁業の六次産業化の促進に関する条例」を制定しました。このことをご存知ですか。

「知っている」が65.0%で最も多い。

農業者の年齢別で見ると、40歳代以上は「知っている」が最も多い一方で、30歳代以下は「知らない」が最も多い。



	合計	知っている	知らない	わからない	無回答
全体	120	78	27	9	6
	100.0	65.0	22.5	7.5	5.0
農業者	88	60	19	6	3
	100.0	68.2	21.6	6.8	3.4
林業者	8	4	2	2	0
	100.0	50.0	25.0	25.0	0.0
漁業者	24	14	6	1	3
	100.0	58.3	25.0	4.2	12.5

■各属性のクロス集計結果（農業者のみ）

	合計	知っている	知らない	わからない	無回答	
全体	88	60	19	6	3	
	100.0	68.2	21.6	6.8	3.4	
性別	男	58	18	4	3	
	100.0	69.9	21.7	4.8	3.6	
性別	女	5	2	1	0	
	100.0	40.0	20.0	40.0	0.0	
年齢別	30歳代以下	11	4	6	1	0
	100.0	36.4	54.5	9.1	0.0	
	40歳代	14	8	5	1	0
	100.0	57.1	35.7	7.1	0.0	
	50歳代	19	15	4	0	0
	100.0	78.9	21.1	0.0	0.0	
年齢別	60歳代	32	24	2	3	3
	100.0	75.0	6.3	9.4	9.4	
年齢別	70歳以上	12	9	2	1	0
	100.0	75.0	16.7	8.3	0.0	
地域別	川内	21	15	5	1	0
	100.0	71.4	23.8	4.8	0.0	
	樋脇	15	12	3	0	0
	100.0	80.0	20.0	0.0	0.0	
	入来	9	7	2	0	0
	100.0	77.8	22.2	0.0	0.0	
	東郷	12	9	2	1	0
100.0	75.0	16.7	8.3	0.0		
地域別	祁答院	28	14	7	4	3
	100.0	50.0	25.0	14.3	10.7	
地域別	甌島	2	2	0	0	0
	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	
形態	個人	65	47	12	3	3
	100.0	72.3	18.5	4.6	4.6	
形態	法人	23	13	7	3	0
	100.0	56.5	30.4	13.0	0.0	

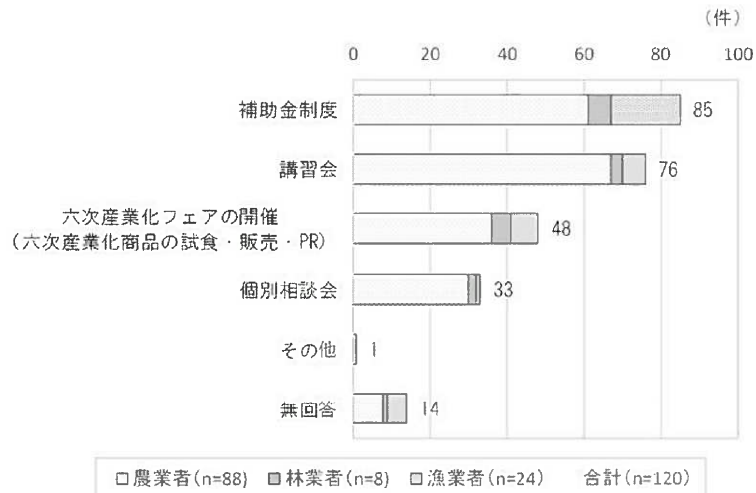
問 20-3 (問 6-3) 本市では、六次産業化を推進するため、様々な事業を展開しています。ご存知の事業は次のうちどれですか。(複数回答)

「補助金制度」が70.8%で最も多い。次いで「講習会(63.3%)」となっている。

農業者は、「講習会」が76.1%で最も多く、次いで「補助金制度(69.3%)」となっている。

林業者は「補助金制度」が75.0%で最も多く、次いで「六次産業化フェア(62.5%)」となっている。

漁業者は「補助金制度」が75.0%で最も多く、次いで「六次産業化フェア(29.2%)」となっている。



	合計	補助金制度	講習会	個別相談会	六次産業化フェアの開催 (六次産業化商品の試食・販売・PR)	その他	無回答
全体	120	85	76	33	48	1	14
	100.0	70.8	63.3	27.5	40.0	0.8	11.7
農業者	88	61	67	30	36	1	8
	100.0	69.3	76.1	34.1	40.9	1.1	9.1
林業者	8	6	3	2	5	0	1
	100.0	75.0	37.5	25.0	62.5	0.0	12.5
漁業者	24	18	6	1	7	0	5
	100.0	75.0	25.0	4.2	29.2	0.0	20.8

【農業者】

その他の意見
知らない

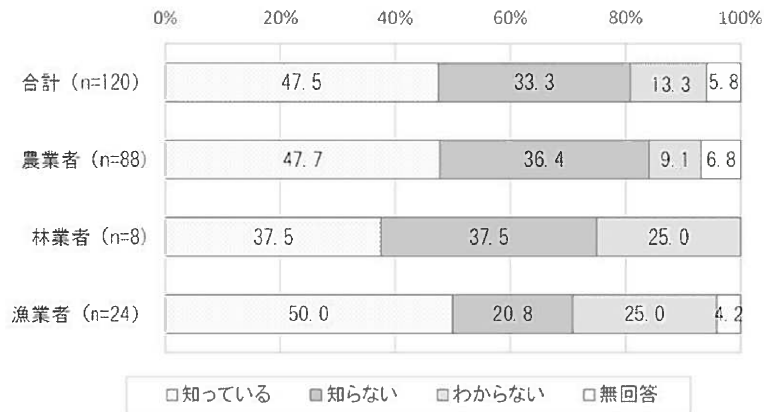
問 20-4 (問 6-4) 本市では、平成 29 年度末までに 11 の六次産業化実施計画を承認し、六次産業化を推進しておりますが、承認者又は承認事業をご存知ですか。

「知っている」が 47.5%で最も多い。次いで「知らない (33.3%)」となっている。

農業者は、「知っている」が 47.7%と最も多い。

林業者は、「知っている」と「知らない」が 37.5%と最も多い。

漁業者は、「知っている」が 50.0%と最も多い。



	合計	知っている	知らない	わからない	無回答
全体	120	57	40	16	7
	100.0	47.5	33.3	13.3	5.8
農業者	88	42	32	8	6
	100.0	47.7	36.4	9.1	6.8
林業者	8	3	3	2	0
	100.0	37.5	37.5	25.0	0.0
漁業者	24	12	5	6	1
	100.0	50.0	20.8	25.0	4.2

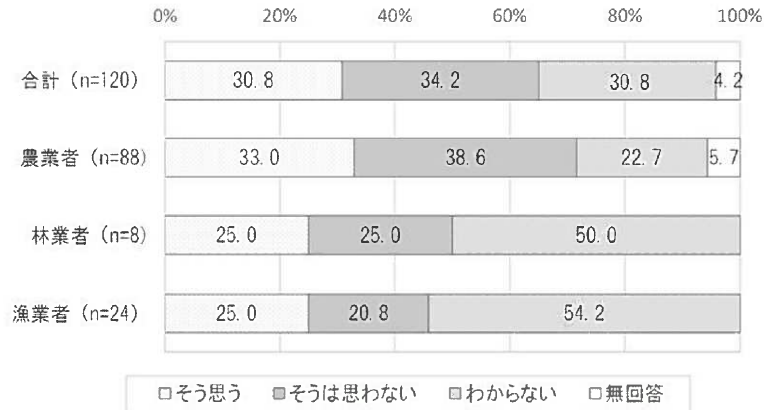
問 20-5 (問 6-5) 本市において、六次産業化に取り組まれる農林漁業者は、年々増えつつあると思
いますか。

「そうは思わない」が 34.2%で最も多い。次いで「そう思う (30.8%)」となっている。

農業者は、「そうは思わない」が 38.6%で最も多い。

林業者は、「わからない」が 50.0%で最も多い。

漁業者は、「わからない」が 54.2%で最も多い。



	合計	そう思う	そうは思わ ない	わからない	無回答
全体	120	37	41	37	5
	100.0	30.8	34.2	30.8	4.2
農業者	88	29	34	20	5
	100.0	33.0	38.6	22.7	5.7
林業者	8	2	2	4	0
	100.0	25.0	25.0	50.0	0.0
漁業者	24	6	5	13	0
	100.0	25.0	20.8	54.2	0.0

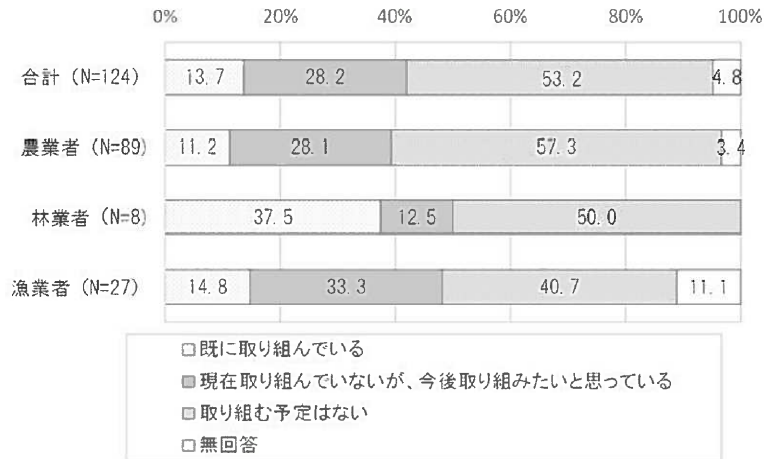
問 21 (問 7) あなた (個人、法人) は現在、六次産業化に取り組んでいますか。

「取り組む予定はない」が 53.2% で最も多い。

性別で見ると、女性は「取り組む予定はない」が 7 割を超えている。

年齢別で見ると、40 歳代以下は「既に取り組んでいる」が 2 割を超え、「今後取り組みたいと思っている」を含めると約 6 割の人が取り組むことに前向きである。

地域別で見ると、甌島と祁答院は「現在取り組んでいないが、今後取り組みたいと思っている」が 4 割を超えている。



	合計	既に取り組んでいる	現在取り組んでいないが、今後取り組みたいと思っている	取り組む予定はない	無回答
全体	124 100.0	17 13.7	35 28.2	66 53.2	6 4.8
農業者	89 100.0	10 11.2	25 28.1	51 57.3	3 3.4
林業者	8 100.0	3 37.5	1 12.5	4 50.0	0 0.0
漁業者	27 100.0	4 14.8	9 33.3	11 40.7	3 11.1

■各属性のクロス集計結果

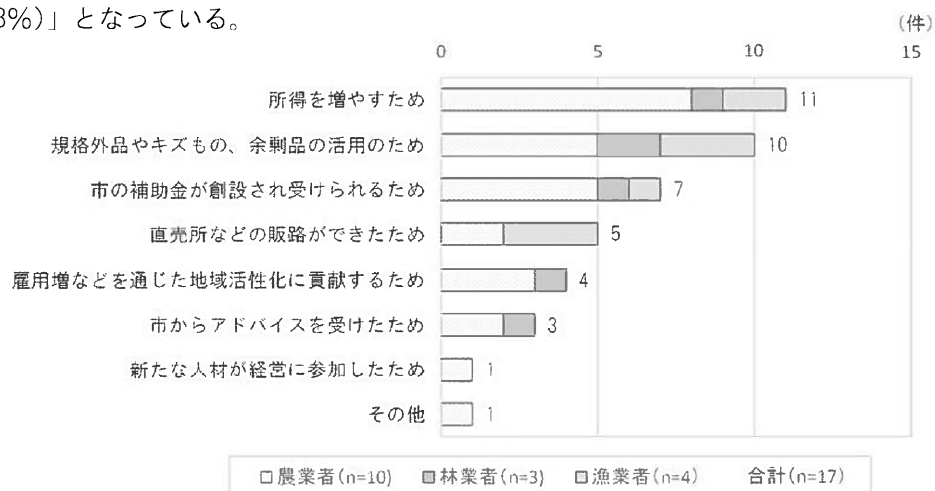
		合計	既に取り組んでいる	現在取り組んでいないが、今後取り組みたいと思っている	取り組む予定はない	無回答
全体		124	17	35	66	6
		100.0	13.7	28.2	53.2	4.8
性別	男	117	16	34	61	6
		100.0	13.7	29.1	52.1	5.1
	女	7	1	1	5	0
		100.0	14.3	14.3	71.4	0.0
年齢別	30歳代以下	18	4	7	7	0
		100.0	22.2	38.9	38.9	0.0
	40歳代	17	4	6	6	1
		100.0	23.5	35.3	35.3	5.9
	50歳代	29	2	9	18	0
		100.0	6.9	31.0	62.1	0.0
	60歳代	40	4	11	22	3
		100.0	10.0	27.5	55.0	7.5
	70歳以上	19	2	2	13	2
	100.0	10.5	10.5	68.4	10.5	
地域別	川内	38	7	7	23	1
		100.0	18.4	18.4	60.5	2.6
	樋脇	15	0	5	9	1
		100.0	0.0	33.3	60.0	6.7
	入来	11	3	1	7	0
		100.0	27.3	9.1	63.6	0.0
	東郷	13	4	3	6	0
	100.0	30.8	23.1	46.2	0.0	
	祁答院	29	1	12	14	2
		100.0	3.4	41.4	48.3	6.9
	甌島	17	2	7	6	2
	100.0	11.8	41.2	35.3	11.8	
形態	個人	84	8	20	51	5
		100.0	9.5	23.8	60.7	6.0
	法人	39	9	14	15	1
		100.0	23.1	35.9	38.5	2.6

※問 21 で「1. 既に取り組んでいる」を選択された方にお聞きします。(農業者)

※問 7 で「1. 既に取り組んでいる」を選択された方にお聞きします。(林業者・漁業者)

問 22-1 (8-1) 六次産業化に取り組もうと思ったきっかけは何ですか。(複数回答)

「所得を増やすため」が64.7%で最も多い。次いで「規格外品やキズもの、余剰品の活用のため(58.8%)」となっている。



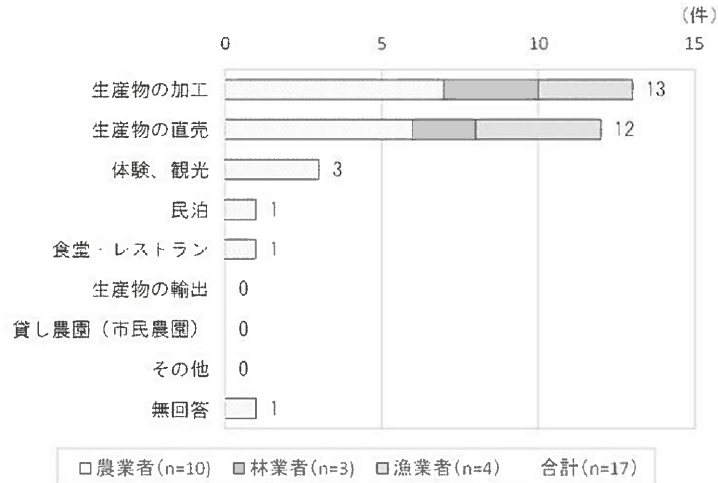
【農業者】

その他の意見
昔から

	合計	所得を増やすため	規格外品やキズもの、余剰品の活用のため	直売所などの販路ができたため	市の補助金が創設され受けられるため	雇用増などを通じた地域活性化に貢献するため	市からアドバイスを受けたため	新たな人材が経営に参加したため	その他
全体	17 100.0	11 64.7	10 58.8	5 29.4	7 41.2	4 23.5	3 17.6	1 5.9	1 5.9
農業者	10 100.0	8 80.0	5 50.0	2 20.0	5 50.0	3 30.0	2 20.0	1 10.0	1 10.0
林業者	3 100.0	1 33.3	2 66.7	0 0.0	1 33.3	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0
漁業者	4 100.0	2 50.0	3 75.0	3 75.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

問 22-2 (問 8-2) 現在取り組んでいるものは次のうちどれですか。また、その取組の概要を具体的にお書きください。(複数回答)

「生産物の加工」が76.5%で最も多い。次いで「生産物の直売(70.6%)」となっている。



	合計	生産物の加工	生産物の直売	生産物の輸出	民泊	食堂・レストラン	体験、観光	貸し農園(市民農園)	その他	無回答
全体	17	13	12	0	1	1	3	0	0	1
	100.0	76.5	70.6	0.0	5.9	5.9	17.6	0.0	0.0	5.9
農業者	10	7	6	0	1	1	3	0	0	1
	100.0	70.0	60.0	0.0	10.0	10.0	30.0	0.0	0.0	10.0
林業者	3	3	2	0	0	0	0	-	0	0
	100.0	100.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0
漁業者	4	3	4	0	0	0	0	-	0	0
	100.0	75.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0

【農業者】

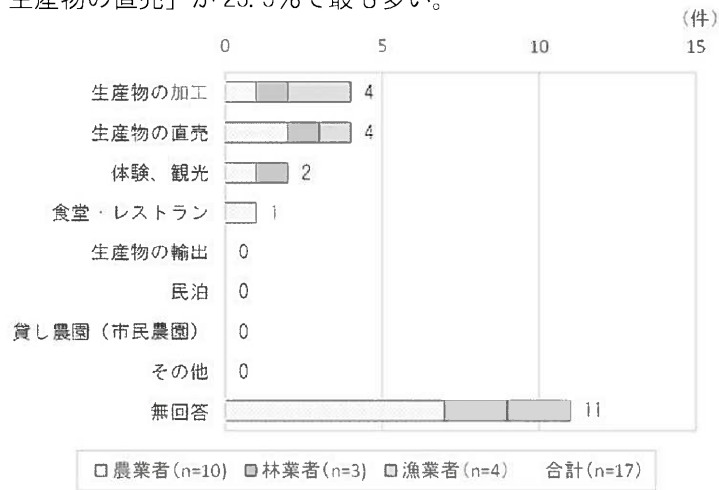
取組の概要
漬物、佃煮、餅、ふくれ菓子、茶、野菜
グリーンツーリズム。ぶどう狩り。規格外ぶどうの加工
生産物の加工…ジュース、ジャム加工
生産物の直売…販売所設置
食堂・レストラン…カフェ新設
体験、観光…収穫・受粉体験
茶、桑の生産・加工・販売、茶の淹れ方教室など

【林業者】

取組の概要
薪の生産、販売
個人向けストーブ用薪販売(少量)

問 22-3 (問 8-3) 問 22-2 (問 8-2) の取組以外に今後実施したいと思っている取組はありますか。
また、その取組の概要をお書きください。(複数回答)

「生産物の加工」「生産物の直売」が 23.5%で最も多い。



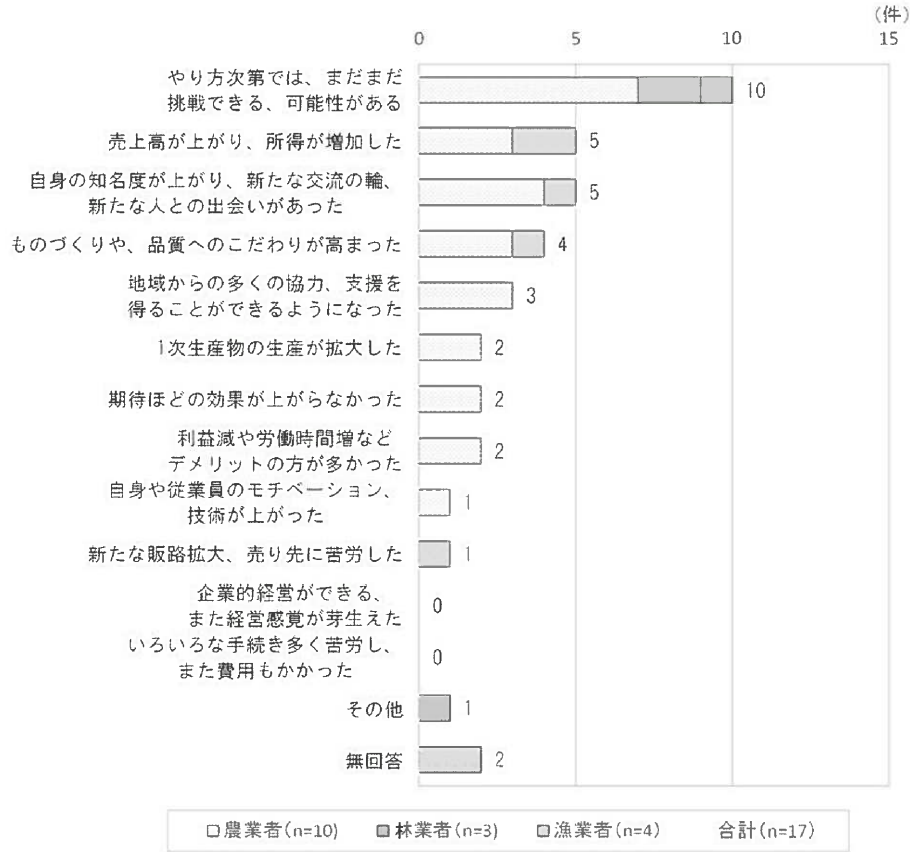
	合計	生産物の加工	生産物の直売	生産物の輸出	民泊	食堂・レストラン	体験、観光	貸し農園(市民農園)	その他	無回答
全体	17	4	4	0	0	1	2	0	0	11
	100.0	23.5	23.5	0.0	0.0	5.9	11.8	0.0	0.0	64.7
農業者	10	1	2	0	0	1	1	0	0	7
	100.0	10.0	20.0	0.0	0.0	10.0	10.0	0.0	0.0	70.0
林業者	3	1	1	0	0	0	1	-	0	2
	100.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	-	0.0	66.7
漁業者	4	2	1	0	0	0	0	-	0	2
	100.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	50.0

【農業者】

取組の概要
直売施設を整備し、売上の増加、地域貢献、活性化を目指す 金柑

問 22-4 (問 8-4) 六次産業化に取り組んでみて効果があったこと、または率直な感想は何ですか。
(複数回答)

「やり方次第では、まだまだ挑戦できる、可能性がある」が 58.8%で最も多い。



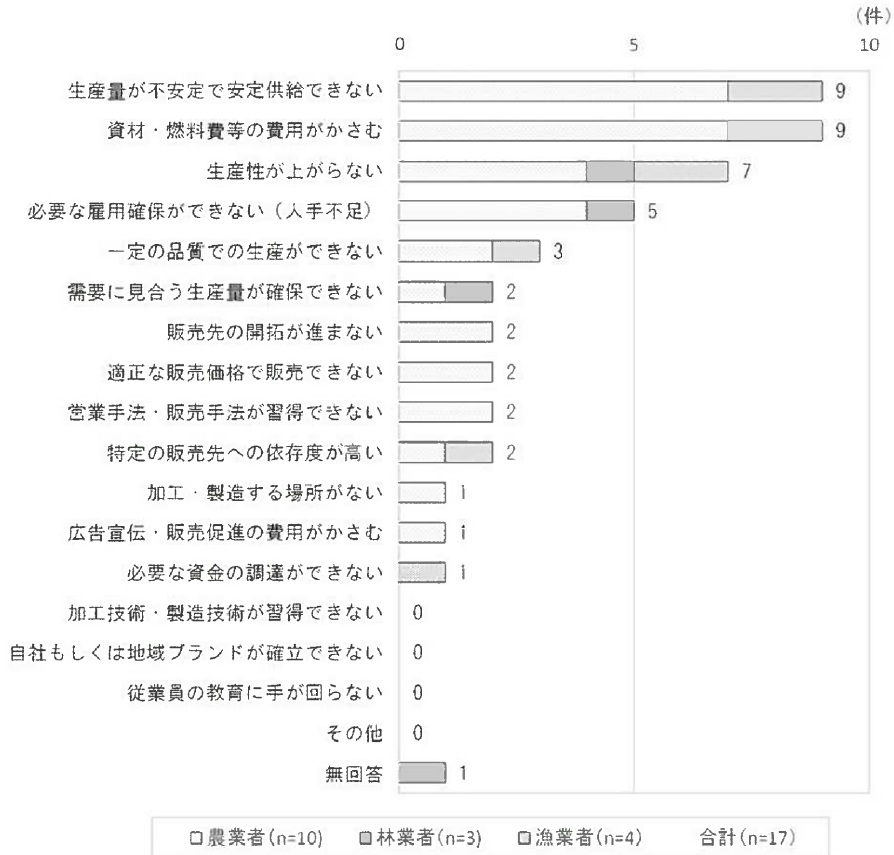
【林業者】

その他の意見
始めたばかりなので、まだ効果は上がっていない

	合計	売上が上がり、所得が増加した	自身の知名度が上がり、新たな交流の輪、新たな人との出会いがあった	ものづくりや、品質へのこだわりが高まった	自身や従業員のモチベーション、技術が上がった	1次生産物の生産が拡大した	企業の経営ができる、また経営感覚が芽生えた	地域からの多くの協力、支援を得ることができるようになった	期待ほどの効果が上がらなかった	新たな販路拡大、売り先に苦労した	いろいろな手続き多く苦労し、また費用もかかった	利益減や労働時間増などデメリットの方が多かった	やり方次第では、まだまだ挑戦できる、可能性がある	その他	無回答
全体	17	5	5	4	1	2	0	3	2	1	0	2	10	1	2
	100.0	29.4	29.4	23.5	5.9	11.8	0.0	17.6	11.8	5.9	0.0	11.8	58.8	5.9	11.8
農業者	10	3	4	3	1	2	0	3	2	0	0	2	7	0	0
	100.0	30.0	40.0	30.0	10.0	20.0	0.0	30.0	20.0	0.0	0.0	20.0	70.0	0.0	0.0
林業者	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0
漁業者	4	2	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2
	100.0	50.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	50.0

問 22-5 (問 8-5) 取組を進める上で、現在、問題となっていることは何ですか。(複数回答)

「生産量が不安定で安定供給できない」「資材・燃料費等の費用がかさむ」が52.9%で最も多い。



	合計	需要に見合う生産量が確保できない	一定の品質での生産ができない	生産量が不安定で安定供給できない	生産性が上がらない	加工・製造する場所がない	加工技術・製造技術が習得できない	広告宣伝・販売促進の費用がかさむ	販売先の開拓が進まない	自社もしくは地域ブランドが確立できない
全体	17	2	3	9	7	1	0	1	2	0
	100.0	11.8	17.6	52.9	41.2	5.9	0.0	5.9	11.8	0.0
農業者	10	1	2	7	4	1	0	1	2	0
	100.0	10.0	20.0	70.0	40.0	10.0	0.0	10.0	20.0	0.0
林業者	3	1	0	0	1	0	0	0	0	0
	100.0	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
漁業者	4	0	1	2	2	0	0	0	0	0
	100.0	0.0	25.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

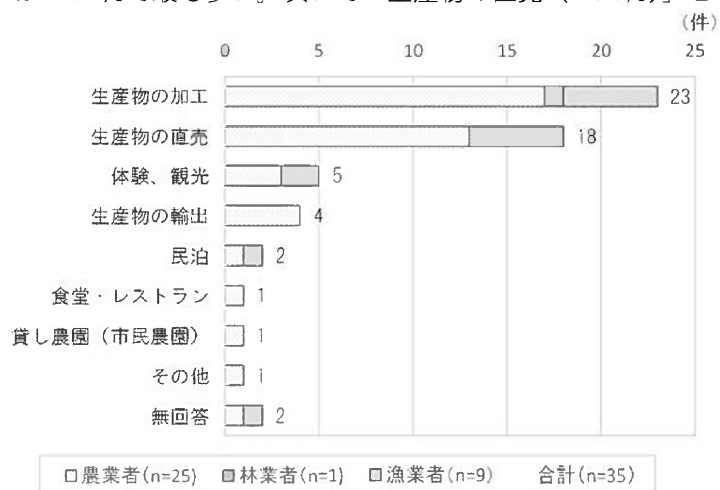
	合計	適正な販売価格で販売できない	営業手法・販売手法が習得できない	特定の販売先への依存度が高い	必要な資金の調達ができない	従業員の教育に手が回らない	必要な雇用確保ができない(人手不足)	資材・燃料費等の費用がかさむ	その他	無回答
全体	17	2	2	2	1	0	5	9	0	1
	100.0	11.8	11.8	11.8	5.9	0.0	29.4	52.9	0.0	5.9
農業者	10	2	2	1	0	0	4	7	0	0
	100.0	20.0	20.0	10.0	0.0	0.0	40.0	70.0	0.0	0.0
林業者	3	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3
漁業者	4	0	0	1	1	0	0	2	0	0
	100.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0

※問 21 で「2. 取り組む予定はないが、今後取り組みたいと思っている」を選択された方にお聞きします。(農業者)

※問 7 で「2. 取り組む予定はないが、今後取り組みたいと思っている」を選択された方にお聞きします。(林業者・漁業者)

問 23-1 (問 9-1) 今後取り組みたいと思っているものは次のうちどれですか。また、その取組の概要をお書きください。(複数回答)

「生産物の加工」が 65.7% で最も多い。次いで「生産物の直売 (51.4%)」となっている。



【農業者】

その他の意見
分からない

	合計	生産物の加工	生産物の直売	生産物の輸出	民泊	食堂・レストラン	体験、観光	貸し農園 (市民農園)	その他	無回答
全体	35	23	18	4	2	1	5	1	1	2
	100.0	65.7	51.4	11.4	5.7	2.9	14.3	2.9	2.9	5.7
農業者	25	17	13	4	1	1	3	1	1	1
	100.0	68.0	52.0	16.0	4.0	4.0	12.0	4.0	4.0	4.0
林業者	1	1	0	0	0	0	0	-	0	0
	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0
漁業者	9	5	5	0	1	0	2	-	0	1
	100.0	55.6	55.6	0.0	11.1	0.0	22.2	-	0.0	11.1

【農業者】

取り組みたい概要
棚田のオーナー制。自家産焼酎の販売
時期関係なく販売できる
加工販売施設の設置
金柑の加工
加工するお茶の種類を増やし、直接飲んでもらって、対面での販売をしたい
生産物の真空パック化

【林業者】

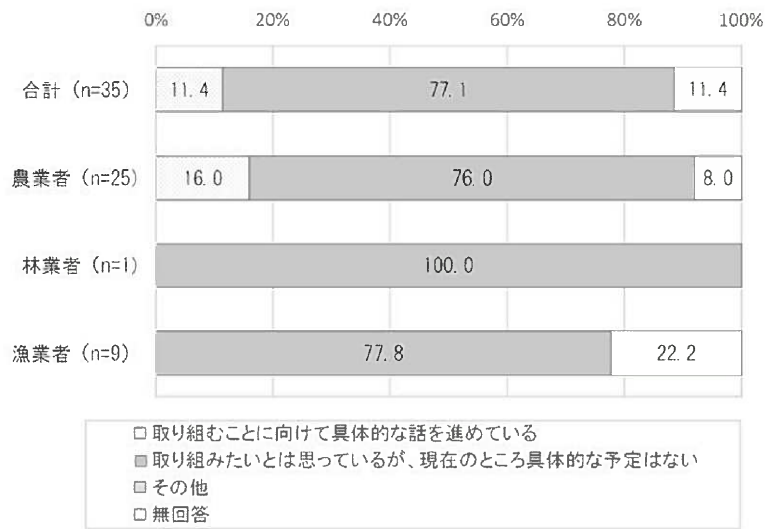
取り組みたい概要
検討中

【漁業者】

取り組みたい概要
魚などの加工・販売
養殖魚の加工施設のレベルアップ
低迷している魚価をどうにかして欲しい
漁業体験

問 23-2 (問 9-2) 問 23-1 (問 9-1) で回答した取組の検討状況はどの段階ですか。

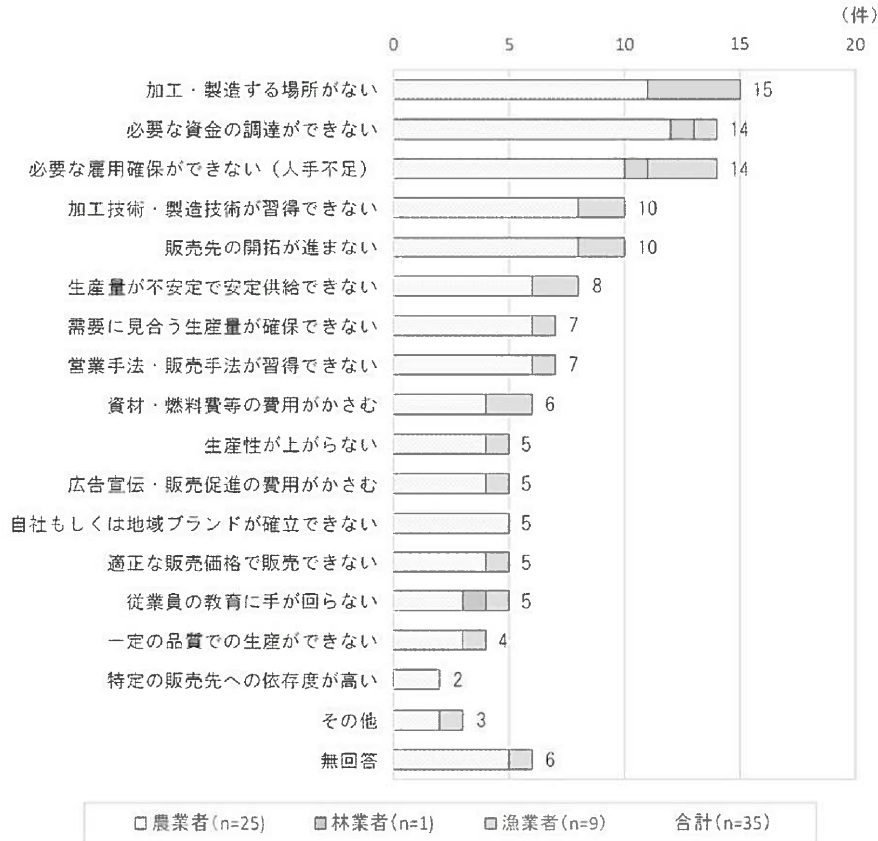
「取り組みたいとは思っているが、現在のところ具体的な予定はない」が 77.1%で最も多い。



	合計	取り組みむことに向けて具体的な話を進めている	取り組みたいとは思っているが、現在のところ具体的な予定はない	その他	無回答
全体	35	4	27	0	4
	100.0	11.4	77.1	0.0	11.4
農業者	25	4	19	0	2
	100.0	16.0	76.0	0.0	8.0
林業者	1	0	1	0	0
	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0
漁業者	9	0	7	0	2
	100.0	0.0	77.8	0.0	22.2

問 23-3 (問 9-3) 取り組みたい意向があるにもかかわらず、これまで六次産業化に踏み込めない理由は何ですか。(複数回答)

「加工・製造する場所がない」が42.9%で最も多い。次いで「必要な資金の調達ができない」「必要な雇用確保ができない(人手不足)」が40.0%となっている。



【農業者】

【漁業者】

その他の意見
労働力

その他の意見
方法・手段が分からない。具体的に見えない

	合計	需要に見合う生産量が確保できない	一定の品質での生産ができない	生産量が不安定で安定供給できない	生産性が上がらない	加工・製造する場所がない	加工技術・製造技術が習得できない	広告宣伝・販売促進の費用がかさむ	販売先の開拓が進まない	自社もしくは地域ブランドが確立できない
全体	35	7	4	8	5	15	10	5	10	5
	100.0	20.0	11.4	22.9	14.3	42.9	28.6	14.3	28.6	14.3
農業者	25	6	3	6	4	11	8	4	8	5
	100.0	24.0	12.0	24.0	16.0	44.0	32.0	16.0	32.0	20.0
林業者	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
漁業者	9	1	1	2	1	4	2	1	2	0
	100.0	11.1	11.1	22.2	11.1	44.4	22.2	11.1	22.2	0.0

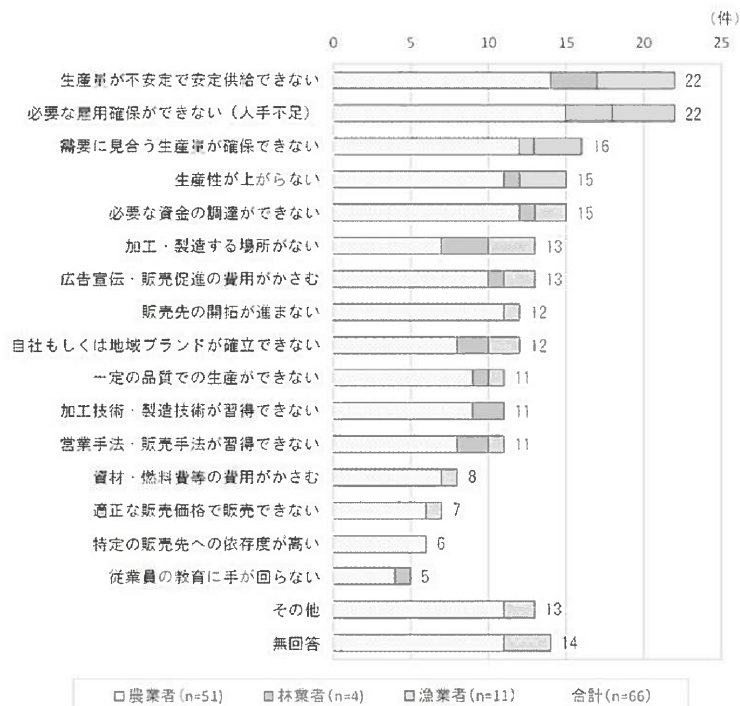
	合計	適正な販売価格で販売できない	営業手法・販売手法が習得できない	特定の販売先への依存度が高い	必要な資金の調達ができない	従業員の教育に手が回らない	必要な雇用確保ができない(人手不足)	資材・燃料費等の費用がかさむ	その他	無回答
全体	35	5	7	2	14	5	14	6	3	6
	100.0	14.3	20.0	5.7	40.0	14.3	40.0	17.1	8.6	17.1
農業者	25	4	6	2	12	3	10	4	2	5
	100.0	16.0	24.0	8.0	48.0	12.0	40.0	16.0	8.0	20.0
林業者	1	0	0	0	1	1	1	0	0	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
漁業者	9	1	1	0	1	1	3	2	1	1
	100.0	11.1	11.1	0.0	11.1	11.1	33.3	22.2	11.1	11.1

※問 21 で「3. 取り組む予定はない」を選択された方にお聞きします。(農業者)

※問 7 で「3. 取り組む予定はない」を選択された方にお聞きします。(林業者・漁業者)

問 24 (問 10) あなたが六次産業化に取り組まない理由は何ですか。(複数回答)

「生産量が不安定で安定供給できない」「必要な雇用確保ができない(人手不足)」が 33.3%で最も多い。



【農業者】

その他の意見	
委託生産のため、ブランド化できない	
年齢的に考える。若い人への取組を進めた方が。	
六次産業化に興味がない	
サツマイモの加工品として消費者が増える品物が見当たらない	
全量農協出荷	
子牛生産なので、今のJA(薩摩中央子牛市場)への出荷が良い	
委託農家のため	
現状をいかに維持していくかで目いっぱい	
一次産業に手が入り、六次化まで回らない	
加工を専門に行う業者以上の品質のものを作れる気がしないし、販売を専門に行う業者以上のセールスを行える気がしない。生産管理部門、商品開発部門、企画・営業部門を抱える大きな組織・会社にする必要があるため、実現へのハードルが高すぎる	
大動物は個人ではできない。組合でも取り組まないといけないと思います	

【漁業者】

その他の意見	
後を継ぐ人がいない	
子どもに跡を継いで欲しいが、魚が取れないです	

	合計	需要に見合う生産量が確保できない	一定の品質での生産ができない	生産量が不安定で安定供給できない	生産性が上がらない	加工・製造する場所がない	加工技術・製造技術が習得できない	広告宣伝・販売促進の費用がかさむ	販売先の開拓が進まない	自社もしくは地域ブランドが確立できない
全体	66	16	11	22	15	13	11	13	12	12
農業者	51	24.2	16.7	33.3	22.7	19.7	16.7	19.7	18.2	18.2
林業者	4	1	1	3	1	3	2	1	0	0
漁業者	11	3	1	5	3	3	0	2	1	2
全体	66	7	11	6	15	5	22	8	13	14
農業者	51	10.6	16.7	9.1	22.7	7.6	33.3	12.1	19.7	21.2
林業者	4	0	2	0	1	1	3	0	0	0
漁業者	11	1	1	0	2	2	4	1	2	3
全体	66	11.8	15.7	11.8	23.5	7.8	29.4	13.7	21.6	21.6
農業者	51	6	8	6	12	4	15	7	11	11
林業者	4	0	2	0	1	1	3	0	0	0
漁業者	11	1	1	0	2	2	4	1	2	3
全体	66	9.1	9.1	0.0	18.2	0.0	36.4	9.1	18.2	27.3
農業者	51	11.8	15.7	11.8	23.5	7.8	29.4	13.7	21.6	21.6
林業者	4	0	2	0	1	1	3	0	0	0
漁業者	11	1	1	0	2	2	4	1	2	3

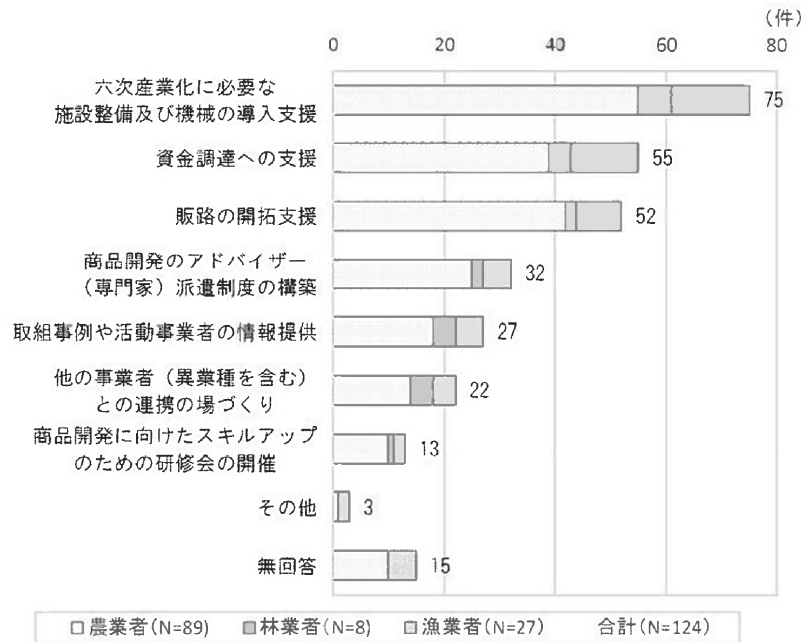
問 25 (問 11) 農林漁業者が六次産業化に取り組む上で必要な支援は何だと思いますか。(複数回答)

「六次産業化に必要な施設整備及び機械の導入支援」が60.5%で最も多い。次いで「資金調達への支援(44.4%)」「販路の開拓支援(41.9%)」となっている。

性別でみると、女性は「資金調達への支援」が7割を超えている。

年齢別でみると、40歳代は「六次産業化に必要な施設整備及び機械の導入支援」が9割近くになっている。

地域別でみると、甌島は「資金調達への支援」が5割近くになっている。



【農業者】

その他の意見
各経営体ではなく、地域全体を六次産業の1つの事業として抱え込む活動を進める

【漁業者】

その他の意見
手段、方法等の具体的な事案の補助

	合計	六次産業化に必要な施設整備及び機械の導入支援	商品開発に向けたスキルアップのための研修会の開催	商品開発のアドバイザー(専門家)派遣制度の構築	販路の開拓支援	他の事業者(異業種を含む)との連携の場づくり	取組事例や活動事業者の情報提供	資金調達への支援	その他	無回答
全体	124 100.0	75 60.5	13 10.5	32 25.8	52 41.9	22 17.7	27 21.8	55 44.4	3 2.4	15 12.1
農業者	89 100.0	55 61.8	10 11.2	25 28.1	42 47.2	14 15.7	18 20.2	39 43.8	1 1.1	10 11.2
林業者	8 100.0	6 75.0	1 12.5	2 25.0	2 25.0	4 50.0	4 50.0	4 50.0	0 0.0	0 0.0
漁業者	27 100.0	14 51.9	2 7.4	5 18.5	8 29.6	4 14.8	5 18.5	12 44.4	2 7.4	5 18.5

■各属性のクロス集計結果

	合計	六次産業化に必要な施設整備及び機械の導入支援	商品開発に向けたスキルアップのための研修会の開催	商品開発のアドバイザー（専門家）派遣制度の構築	販路の開拓支援	他の事業者（異業種を含む）との連携の場づくり	取組み事例や活動事業者の情報提供	資金調達への支援	その他	無回答	
全体	124	75	13	32	52	22	27	55	3	15	
	100.0	60.5	10.5	25.8	41.9	17.7	21.8	44.4	2.4	12.1	
性別	男	117	70	13	32	50	20	26	3	14	
	100.0	59.8	11.1	27.4	42.7	17.1	22.2	42.7	2.6	12.0	
性別	女	7	5	0	0	2	2	1	0	1	
	100.0	71.4	0.0	0.0	28.6	28.6	14.3	71.4	0.0	14.3	
年齢別	30歳代以下	18	13	1	7	5	5	6	2	1	
	100.0	72.2	5.6	38.9	27.8	27.8	27.8	33.3	11.1	5.6	
	40歳代	17	15	2	3	7	5	5	9	0	
	100.0	88.2	11.8	17.6	41.2	29.4	29.4	52.9	0.0	0.0	
	50歳代	29	17	3	8	10	6	8	13	0	4
	100.0	58.6	10.3	27.6	34.5	20.7	27.6	44.8	0.0	13.8	
年齢別	60歳代	40	20	6	11	20	4	8	18	0	6
	100.0	50.0	15.0	27.5	50.0	10.0	20.0	45.0	0.0	15.0	
	70歳以上	19	10	1	3	9	2	1	8	1	4
100.0	52.6	5.3	15.8	47.4	10.5	5.3	42.1	5.3	21.1		
地域別	川内	38	26	6	10	13	5	8	17	3	3
	100.0	68.4	15.8	26.3	34.2	13.2	21.1	44.7	7.9	7.9	
	榑脇	15	11	2	2	8	3	2	5	0	2
	100.0	73.3	13.3	13.3	53.3	20.0	13.3	33.3	0.0	13.3	
	入来	11	6	1	4	5	5	5	3	0	0
	100.0	54.5	9.1	36.4	45.5	45.5	45.5	27.3	0.0	0.0	
	東郷	13	7	1	6	8	1	2	4	0	2
100.0	53.8	7.7	46.2	61.5	7.7	15.4	30.8	0.0	15.4		
祁答院	29	18	1	8	12	4	8	17	0	3	
100.0	62.1	3.4	27.6	41.4	13.8	27.6	58.6	0.0	10.3		
瓶島	17	6	2	2	6	3	2	8	0	5	
100.0	35.3	11.8	11.8	35.3	17.6	11.8	47.1	0.0	29.4		
形態	個人	84	48	7	21	32	15	15	40	3	13
	100.0	57.1	8.3	25.0	38.1	17.9	17.9	47.6	3.6	15.5	
	法人	39	26	6	11	19	7	12	14	0	2
100.0	66.7	15.4	28.2	48.7	17.9	30.8	35.9	0.0	5.1		

問 26 (問 12) その他、薩摩川内市の農業・農村（林業、漁業）が目指すべき姿や六次産業化のあり方について、ご意見・ご提案がございましたら、ご自由にお書きください。

【農業者】

自由意見
市役所に勤められて認定農業者になりましたが、今まで補助金など1回も利用したことがない。若い人達にはそれなりのメリットがあるようですが、60歳になってからはあまりにもハードルが高く、利用できない。申請しようとしても手元に機械が来るまでは年数がかかりすぎる。平均年齢が70歳になるうとしているこのごろだから、高齢になってもやる気のある農家にはいろんな援助をしていかないと若い人達も参入してこないと思う。鹿児島県薩摩川内市の専業農家の平均年齢は残念ながら、毎年1歳ずつ上がっていくと思います。サラリーマンをリタイヤした人達も賛同していくような政策も必要だと思います。
あまり興味がなくて、取組に後向きであります。地域で何をしようか、これを取り組んで六次産業化に前向きに行こうかという話になれば、協力についてはやぶさかではありません。私の周りではそれぞれ皆さん方は関心がないようです。六次産業化に先ず目をむけさせる事が重要ではないでしょうか。
農地の整備（基盤整備や耕作放棄地の整備）。農業機械の価格高騰に対しての補助金額の見直し。高齢農家への支援。
加工できる生産物を作っている人は良いが、加工に向かないものを作っている人はどのようにしていいかわからない。六次産業化は生産者の生産物と資金次第とやる気だと思います。
畜産経営等については補助制度が非常に安定しているが、水稻等についてはほとんどなく、機械などの購入が負担大のため収益が少ない。
特にないが、六次産業するのは難しい。
農業生産者、今がやっとならぬ人材的にも難しいのが現実です。
和牛繁殖経営であるが、六次産業化できる事例があれば知りたい。
従来農業は「儲からない、苦労が多い、重労働である…」概念が大きすぎる。この部分が変わる、又は崩れれば農業に携わる人口の減少は鈍化していくと思われ。薩摩川内市内で、農業分野での成功事例などが身近な話題として見聞かされると、もっと面白くなっていくのかなと感じます。
今後の人手不足が不安です。地元の女性達の高齢化が…。
農作業の人手不足。新規農作物への支援。耕作放棄地の有効利用。
助成金目当ての農業で表面だけで中身がない雑な農地が多すぎる。
近隣市町の農業（農家）支援などを見比べるとサポート不足を感じています（例えば、ハウス等のサポートなど）。
異業種間の交流。後継者の結婚。兼業農家の充実。
国は認定農家や担い手に集約して強い農家作りを目指しているが、中山間地域の多い当市は、多くの兼業農家なくしては、成り立たない。賃金の安い地方では、兼業での農作物の副収入があるからやっていける部分もあると思うので、いろんな事業や制度を販売農家、認定農家ばかりでなく、兼業農家も使えるようにしていかないと、田、畑、その他農地は荒れていく一方だと思う。また、集落営農には強力なリーダーシップを発揮できる人が不可欠であると思う。そういう人材を育てる仕組みなり、支援が必要ではないか。農業基盤のある後継者は続いている。基盤の弱い新規就農者等には、収入確保でき生活していけるまで地域の農業者の支援も含めた長い取組が必要だと思う。
・甕島の農業（耕種園芸）の振興。生産上の問題は、塩害の程度をどのくらい受けるかどうかでしょうか。無霜地帯というのは非常に大きな利点。輸送コストは税金を投入してでも産地化して、日本全体へ出荷できる体制が作れば回収してお釣りが来る。沖永良部からは毎週日本中へキク、ユリが出荷されていますし、それらを生産する農業は地域の産業であると認知されています。 ・一筆あたりの面積が広い畑は大きな機械を持った担い手に積極的に紹介していくとともに中山間地特有の狭く機械作業の恩恵が受けにくい圃場を活用するために行政と農家が提携して坪当たりの粗収益が高い品目を試験的に生産して種々のデータを取っていく。ホオズギが全然足りません。出荷して下さいと花屋が言っていました。

自由意見
<p>広くて機械化しやすい農用地に関しては、大規模農家や団体・法人等が参入しやすくなる様、更に政策を進めて欲しい。しかしながら、狭隘な中山間地域においては、なかなか難しい事はこのアンケートの設問にあるとおりです。自然環境や田園景観の保全、形成の観点からどうにかしたいし、して欲しいものです。このような農家に残った経営者は会社勤めをしながら、朝夕若しくは土・日の休日を返上して頑張っておられます。退職後は親の介護をしながら、又は、高齢になっても。少し油断したら、作物も病害虫や鳥獣の被害にあったり、周囲は草ぼうぼうとなってしまいます。それでも固定資産税は請求が来、苦勞が報われません。自然環境等の保全や形成の目的で補助金又は交付金として還元して欲しいです。</p>

【林業者】

自由意見
<p>当社は、林業の基幹作業である植林・保育・伐採・搬出の事業を主体としていますが、人材（人員）不足で、次の段階まで踏み込めない状態です。</p>

【漁業者】

自由意見
<p>現在の漁業での生活が厳しい中で、本当に六次産業化が正しいのか、非常に不安であり疑問に思う。そのままの状況での魚をもっと高く売れる流通経路の確保なども考えて欲しい。もちろん自分らでも新しい高く売れる売り先は確保しているが。朝から晩まで漁、準備などをした上に何かを加工・販売の時間を確保するのは難しいと思う気持ちもあります。</p>
<p>後継者育成のために、許可（県）の制限の緩和。</p>
<p>資源は沢山あります。頑張りさえすれば、市役所職員の給料を上まわる収入が得られます。悲しいことに後継者がいません。後継者づくりをしないと、下甕から漁業者はいなくなってしまう。協力はしますので、後継者づくりをやるのが第一の課題だと思います。</p>
<p>方法等の具体的な進め方が分からない。六次産業化のあり方など、全く分からない。今後のビジョンが全く見えない。</p>
<p>甕島の漁業においては、鹿児島市場に出荷するという今までの流れでは、魚価は安いので、生産者が直販するべきであると思います。しかし、個人で販売までするのは、難しいので、やはり、漁協かそれに変わる窓口があればどうかと思います。又、漁業だけでなく、観光業や体験プログラムなど、他業種との連携が必要です。そこから漁業者を増やすことにもつながるのではないのでしょうか。できれば、いきなり起業は難しいので、生活の基盤は現行のまま、小さく始めることができれば、もっと新しい取組を考えている人は多いと思う。水産加工、販売においても、使用できる加工施設がないので、販売できる商品化までいかない（地元売り程度になる）。低利用料で使用できる加工施設が欲しいです。</p>
<p>漁港には使わない漁船やプレジャーボートがあり、台風の際に避難港に入れられないなどがあり、船の廃船の補助または廃船の仕方なども市で検討して欲しい。川内市の漁業は新しい漁法などを導入しないと今のままの漁法では将来は明るくないと思う。六次産業化も魚がまず取れないと六次産業化どころではないと思う。</p>